

ヨガアケル、

【物語の時代背景】

「感情は人類の財産である。

感情が心を豊かにし、人生を豊かにする。

だが、感情で人の価値が決まるものではない。

感情は無限の可能性を持っている。

しかし感情に価値を求めてはならない。」

マクタ・チエグワーカ

天才科学者が残したコトバである。

この科学者の研究により、人間の感情を保存することに成功する。

人類初の保存された感情を「ファーストエモーション」と呼ばれている。

やがて感情の複製に成功する。「クローンエモーションⅡ CE」

更に、人工感情の精製に成功。「アーティフィシャルエモーションⅡ AE」

感情が複製できることにより、事故や病気で心を塞いでしまった患者への使用がなされる。

CEの一般販売が開始される。品質と価格の競争が始まる。

人々は自ら感情を作ることをしなくなる。感情は買うものとなる。

CE精製に希少物質を使用しており、純度の高いCEの価格高騰。同時に粗悪なCEが出回る。一日の感情の摂取量を制限する国が出てくる。

希少物質を手に入れられず、感情を捨てる国も出てくる。「無感情論」感情差別、感情貧困などが生まれる。

やがて戦争に発展。

ある国は、戦時中により感情が配給制になる。

敗戦国は、今後の二度と戦争を起こさないよう「国民総無感情条約」を結ばされ、全ての感情を奪われる。

少数ではあるが「反無感情派感情解放国際連合」が、全世界の感情を解放すべく立ち上がる。しかし、感情激情派国により、再び戦争に突入しようとしている。

世界は今、分厚い雲に覆われている。

【物語の主な場所と背景】

●グレンシオ王国

反無感情派感情解放国際連合に加盟していたが、現在の国王になってから離脱を表明。国連はこれを承認せず、交渉の場を求めている。

しかし、グレンシオ王国は独自の「感情解放宣言」を掲げ、無感情派の近隣諸国に対し、攻撃的な態度を示している。軍事訓練、兵器の開発などを着々と進め、現在、近隣諸国および国連と緊迫した状態である。

●国内の「シエルター」と呼ばれる巨大な施設

元々は、感情差別や感情貧困者を保護する為に作られた施設である。今、三代目教祖と呼ばれる人物により、宗教色が強くなっている。

この施設を良しとしない者からは「オカルト宗教団体」と揶揄されている。その原因は、王国が掲げる「感情解放」に対し、「感情を抑制することが幸福である」と説き、「心を乱さぬように」がシエルターの教えである。その為か、入所者の家族や友人が、「無感情論派だ」と解放を求めてやってくることもある。シエルター側は、「無感情論派」を否定している。

三代目教祖になって間もなく、「鬼」と呼ばれる魔物から攻撃を受けている。防衛隊が組織され、対策に当たっている。最近、土地が枯れ始めており、作物が細り、食料難が続いている。その為、土壌調査隊も組織され、豊かな土地を求め施設外の土壌調査を行い、施設拡大または移設を視野に入れている。

●国内の「ガリケリア地区」と呼ばれる場所にある「感情解放民間組織」の一室

ガリケリア地区は、主に移民や難民が多く住んでいる場所。土地も豊かで農業が盛んである。感情解放には賛成であるが国の政策には疑問を抱いている人たちが大半である。

最近は、シエルターに対し、入所している家族や友人の解放を求め活動している。施設近隣で色を失い白くなった草花を発見した為、施設を訪れる時は防護服と防護マスクを着用している。

●ハキダメの森

人々の不要になったモノが、不法に捨てられている。

ツルというお婆さんが、そこで一人暮らしている。

しかし、その森の近くを通った者たちは、賑やかな声が聞こえたが、森に近づくと、ぼろを身にまとったツルがいるだけだったと言い、皆不思議がった。

作品のテーマ

本当の幸せとは。他人により押し付けられるものではない。自分で探すもの。

【プロローグ】

「太陽の壁」と言われる壁の前。
日が昇る。

壁には小さな穴が空いている。

その穴から、朝日が射し込んでくる。

一人の少年が立っている。穴から射し込んだ朝日による逆光で顔は分からない。

鉄の棒のような物を振り上げ・・・

少年

うあああ——！！！！

叫び声と共に、壁に向かって力いっぱい棒を叩きつけようとする・・・

暗転

【——】 国営ラジオ

チューニングノイズが聞こえ、やがて声が聞こえてくる。

ラジオからの声

第7回デルタ会議は、20日後、グレシオ王国にて開かれることが決定しました。本国は、輸出入の規制緩和と、全世界の感情の解放を求めています。会議には、現在休養中のレオンハルト第一王子に代わって、ヒューゲル第二王子が交渉の席に就くことになりました。ヒューゲル王子が政務に就くの

は、今回で二度目のこと。不安視する声もありますが、今回、ヒューゲル王子がどのように交渉をするのが争点となりそうです。繰り返します。

【1-2】鬼がやってきた！

同じく「太陽の壁」の前。

「太陽の壁」には、白色で描かれた太陽。そして壁の足元には、白い草、ところどころに白い花が咲いている。穴はあいていない。

夜は明け、一時間が過ぎた頃。辺りは明るい。

壁の前には人々が集まってきている。

人々の服装は白である。または白に近い色。または黒。

基本的に、シエルターの人々の感情が大きく動くことはない。口で心配するような事を言っても、心は動いていない。

しかし、心が動かない分、呼吸が乱れる事がある。

人々はまず、太陽の壁に向かってお祈りをする。

お祈りは、両手を胸に当て、その両手を空へかざす。その間「心を天空に捧げます」と唱える。

因みに、ここでは殆どの挨拶が「心を天空に捧げます」になる。

お祈りを済ませると皆、「朝闇の儀」を待っている。

男1

聞いたか？噂ではシエルター内の畑は全滅らしいぞ。

女 1
男 1
女 1
男 1
女 1
男 1
女 1
女 2
男 1
女 2
男 1
女 1
男 1
女 2
女 1
男 1
女 1
女 2

そんな・・・。

備蓄されてる食料がどれだけあるか・・・。

調査隊の土壌調査区域を更に広げるらしい。

正直なところ、この土地を捨てた方がいいんじゃないかしら。

ここでは暮らしていけないの？

そうなるだろうな。

どうしてこんなことに。

鬼だよ。鬼がシエルターに何か投げ込んで行くだろ。あれが、この土地を腐らせているらしいぞ。

誰かが災いを呼んでる。

そうなるな。

はあはあ・・・(息が荒くなる)

大丈夫？

乱すな、乱すな、鬼を呼び寄せちまうぞ。

あなたが、変なこというからよ。

俺かよ。

心を乱しちゃダメだよ。深呼吸、深呼吸。

「感情を抑制することが幸福への道」

「感情を抑制することが幸福への道」

女2、深呼吸。

この様子を見て、周りの人々も、その場で女2に対して「感情を抑制することが幸福への道」と唱える。

女2 ……(落ち着く)「心を天空に捧げます」

人々、優しく手を7回叩く、そして「心を天空に捧げます」の手振り。

女1 最近、多いよね? どこか悪いんじゃない?

女2 大丈夫。どこも悪くないから。

女1 念のため一度、診てもらったら?

男1 診てもらって言ったって、噂じゃドクターは鬼にさらわれたんだろ。

女1 その噂だけど、本当なの?

男1 ああ、見たってやつがいるんだ。えーっと、あ、あいつだ。(ロイに)おい。

ロイ、近づいてくる。

ロイ な、何だい?

男1 ドクターは鬼にさらわれたんだよな?

ロイ え、な、え、ど、え、だ……。 (とんでもない動揺を表す)

女1 乱れる、乱れる。

男1 鬼を呼び寄せるぞ。

ロイ あ、あ、あ、(深呼吸)

人々、ロイを見るが、すぐに落ち着くため、祈ることはしない。
一間おいて、別人のような落ち着きで

ロイ

ドクターが鬼にさらわれた？誰がそんなことを？

男1

お前が一人でブツブツ言っているのを聞いたんだよ。

ロイ

え、え、え、え、え、

女1

乱れてる、乱れてる。

男1

心を乱すな。

ロイ

・・・(深呼吸)

人々、ロイを見るが、すぐに落ち着くため、祈ることはしない。
一間おいて、別人のような落ち着きで

ロイ

ドクターは鬼にさらわれた。それは本当だ。

女2

はあはあ・・・

今度は、女2の息が荒くなる。

男1

深呼吸しろ、深呼吸。

女1

ちよっと、もうあなたたち、あっち行って。

男1とロイは離れていく。

女1は、女2に「感情を抑制することが幸福への道」と唱え、近くにいる人々もまた同じように唱え、祈っている。

この間に、ローダンがやってきて、壁に祈り、ロレッタたちの方へ。

ロレッタ

あの人たち大丈夫かしら？

ヘデラ

あの人たちじゃないでしょうね、鬼を呼び寄せているのは。

ローダン

(眠たそうに近づいてきて) だとしたら、もっと感情を抑制してもらわないとな。

ヘデラ

夜更かし？

ローダン

ちよつとな。

ヘデラ

また「知恵の間」に行っていたのね。

ロレッタ

今度は何を調べていたの？

ローダン

このセカイについてさ。

ロレッタ

何それ。

ヘデラ

セカイのことより、もっと私を見て。

ローダン

見てるよ。

ヘデラ

見てない。

この間、ピーターがやってきて壁に祈る。それを子どもたちが見つけ

子ども1

ピーターだ。

子ども2

ねえ、今日は何して遊ぶ？

子ども1

小川に葉っぱの舟を流そうよ。

ピーター

(眠たそうに) そうだな。そうしよう。

ロレッタ

あなたも夜更かし？

ピーター ちよっとね。

ローダン お。四代目も近いか？

ピーター 違うよ。土について調べてたんだ。

ヘデラ 土壌調査隊にでも入るの？

ピーター そのつもりだ。な、ローダン。

ヘデラ え？（ローダンを見る）

ローダン ピーター、そのことについてなんだけどさ。

人々がひざまずく。ローダンに「三代目！」と声上がる。

そこへ、科学者セト、その付き人。そして、三代目教祖エルがやってくる。

セト、鋭い眼光で人々を見渡す。

セト 朝闇の儀をはじめます。

人々は祈る。「心を天空に捧げます」と。

そして一気に静まり返り、三代目教祖エルの声を待つ。

エル 心を乱す者、それは災いを呼ぶ者。災いを呼ぶ者、それは鬼を呼ぶ者。鬼に呼ばれる者、それは鬼となる者。

人々 感情を抑制することが幸福への道。

エル 捧げなさい。

人々 心を天空に捧げます。

エル 天空の声を聞きなさい。
人々 我々をお導き下さい。

エル 「この国は過ちを犯し続けている。我々は、我々の道を歩んでいる。この道は、未来に続いている。
乱れることなく、真っ直ぐに」

人々 心を天空に捧げます。

エル 我々の進む道は、いつも真っ直ぐなのです。乱れることなく、真っ直ぐなのです。進みましょう。
心を乱すことなく。

女2 あんまり……

セト 今は発言の時ではありませんよ。

エル (セトを手で制し) いいんですよ。(女2に) 発言しなさい。

女2 私は、私たちは、ここで暮らしていただけますか？ ここで暮らしていただければ、幸福になりますか？
ここが「幸福の楽園」なのです。

女2 心を天空に捧げます。

全員 心を天空に捧げます。

人々は祈る。「心を天空に捧げます」と。

セト 今日の朝闇の儀は、これで終わります。

付き人が、小袋を人々に渡す。受け取ると「心を天空に捧げます」とありがたがる。

小袋の中は食料。受け取って、すぐに食べる者もいる。
ローダン、エルに近づく。

ロイ、セトに近づく。
人々、去ろうとして、止まる者、気に留めず去る者。
ロイ、セトに話しかけようとするが、

ローダン お願ひがあります。

エル (頷く)

ローダン まだ適正年齢ではないことは分かっていますが、防衛隊に志願したいんです。

ピーター え。

ロレッタ え。

エル (ローダンの目を見つめている)・・・。

子どもたち ピーター、行こうよ。

ピーター ちよっと先に行っててくれないか。

子どもたち 分かった、先に行ってる。すぐに来てよ (去る)

この間、セト、ローダンをじっと見ている。

ピーター どういうことだ、ローダン。

ローダン このシエルターを鬼から守りたいからです。

エル それだけですか？

ローダン ……。

エル 君はイラの弟だね。イラは優秀なドクターでした。お姉さんを助け出したい。そうですね。
ローダン はい。

そこに居合わせた人々が少しハツとなる。そして「感情を抑制することが幸福への道」と小さく唱える。

エル
いいでしょう。

セト
三代目。

エル
（セトに）いいんですよ。（ローダンに）すぐに研修を受けなさい。研修を終えたらすぐに防衛隊の職に就けますよ。

ローダン
心を天空に捧げます。

ピーター
父さん、僕もお願いがあります。

カンカンカンと奇襲を知らせる鐘になる。

セト、付き人に合図を送り、付き人は鐘の鳴る方へ去る。

ローダン
鬼の奇襲だ。

エル
ピーター、子どもたちを。

ピーター
ちよっと待って。

男
誰だ災いを呼んだのは。誰かの心が乱れている。（と言って祈りながら去る）

エル
さあ、皆さん、心を乱さずに。

セト
月の塔へ避難です。

人々、「感情を抑制することが幸福への道」とブツブツ唱えながら月の塔へ向かって逃げる。

ピーター

僕の話も聞いてほしいんだ。

エル

今、あなたのすべきことはなんですか？

防衛隊がやってくる。しかし、防衛隊から緊迫した空気は感じられない。

因みに、防衛隊1は、感情を落ち着かせる光と書いて「感落光(カンラクコウ)」という装置を持っている。それ以外の防衛隊は、刺股(サスマタ)を持っている。

防衛隊長

はい。注目して下さい。いつも言っている事ですが、大事な事なので、いつも言います。今、起きている事は訓練ではありません。いいですか。訓練で積み重ねてきた事をしっかり行えば問題ありません。心を乱す事なく、ご安全に。

防衛隊たち

ご安全に。

と声を合わせると、隊長の指示で、隊長以外の防衛隊たちは鐘の鳴る方へ去っていく。

防衛隊長

(エルに) さあ、避難しましょう。

エル、行こうとする。

ピーター

父さん。僕は土壌調査隊へ志願します。

エル

。。。

ピーター

このままだと皆、飢えてしまう。僕にだって、それぐらいは分かる。だから僕も役に立ちたいんです。

エル ピーター、あなたにはあなたのやるべきことがあります。

ピーター

エル それは何でしたか？

ピーター、セトを見る。エル、それを見て同じくセトを見る。セト、考え込むようにじっとしている。

ピーター 子どもたちの世話をする。

エル そうです。それが、今のあなたのやるべきことです。(少し語気が荒くなる)

セト 三代目。

エル

防衛隊長 (エルに) さあ、避難を。

エル、防衛隊長に連れられ、去ろうとする。

セト どうでしょう？ 一度、土壌調査の見習いだけでも経験してみるといいのは。

エル 何を言うんです。

セト 土壌調査中には防衛隊も傍にいます。

ピーター セトさん。

ローダン 僕からお願います。

セト このシエルターにとっても、役に立ちたいという思いを無下にするわけには行きませんでしょう。

エル 危険なことは絶対にしない。子どもたちの世話は、これまで通り続ける。これが条件です。約束できませんか？

ピーター はい。(喜びが出る)

エル くれぐれも、心を乱さずに。

ピーター 心を天空に捧げます。(セトにも)心を天空に捧げます。

セト (頷く)……。

エル (ピーター)さあ、子どもたちを。(他に)皆さんも月の塔へ避難を。

ピーター はい。

ローダン 俺も手伝うよ。

ピーターたち、去っていく。

エル、防衛隊長を離れさせ、セトと二人だけになり。

二人だけの時は、感情を露にする。

エル 知っていたのか？

セト よく相談に乗っている。

エル あいつの父親は俺だぞ。

セト 当たり前だ。

エル お前はただの科学者だ。枯れた土地はお前の科学で何とかするんだ。息子を巻き込むな。俺は、もう二度と家族を危険な目に合わせたくない。それはお前も同じだろ。

セト ああ、そうだ。

エル じゃあ、何故だ。

セト いずれ四代目になる。外の経験も必要だ。

エル 外のセカイを知る必要はない。それに息子の事は俺が決める。俺が幸せにする。他人のお前が口を出

すな。

セト (返すコトバを失う)

エル 息子に何かあったら、俺はお前を許さないからな。

セト

エル、呼吸を整えてから防衛隊長と共に去る。

セト、それを見送る。付き人が、鐘が鳴る方から戻ってくる。

付き人 鬼はじきに捕まります。

セト ディアスは？

付き人 今回の奇襲にディアスは参加しておりません。

セト そうですか。準備は怠らないように。

付き人 はい。

セトと付き人、去る。

まだカンカンカンと鐘は鳴っている。

謎の男が一人やってきて、何かに気付き、隠れる。

そこへ、ロイが戻ってくる。

ロイ

あ、ど、え、あ、お、わあ、俺のせいだ。俺のせいだ。俺が心を乱したから、災いを呼んでしまったんだ。ドクターの時もそうだ。俺のせいだ。災いを呼んだから、災いが鬼を呼んでしまった。ああ、どうしよう。どうしよう。深呼吸だ、深呼吸。すうーふうーふうー。 (落ち着く)

鐘が止まる。

ロイ

ほら。止まった。俺が落ち着いたから止まった。俺の心の乱れが治まったから鐘が止んだ。ダメだ、もうここには居られない。みんなを不幸にしてしまう。不幸が連鎖して、みんな鬼に連れ去れて食われてしまう。しかし。しかしだ。そもそも、俺の心が乱れたのは、俺のせいじゃない。俺のせいじゃない。あれを見てしまったからだ。あれを見てしまったからだ。そうだ、ここには居られないんじゃない。ここには居たくない。居たくない。逃げよう。逃げよう。どうやって。どうやって逃げる。あれを見てしまった以上、ここには居ちゃダメだ。セトさんに相談しよう。きっと俺を救ってくれる。何を見たんだい？

謎の男

わああああああ！！！！！！！

ロイ

再び鐘が鳴る。

ロイ

ほらああああああ！！！！！！！

謎の男

(周囲を気にしながら) 落ち着け、落ち着け。(ロイの背中をさすってやる)

ロイ

すうーふうーふうー！すうーふうーふうー！すうーふうーふうー！

謎の男

そうだ、そうそう。

ロイ、落ち着く。
鐘が止まる。
ロイ、別人のように。

ロイ 何者だ、お前は。

謎の男 俺のことはいいんだよ。それより、何を見たんだい？

ロイ い、い、い、い……（呼吸が乱れそうなのを必死で抑え）言えない。

謎の男 セトに関係することかい？

ロイ ど、ど、ど、ど……（また呼吸が乱れそうになるのを必死に抑え）どうしてそう思う。

謎の男 俺も見たからさ。

ロイ お、お、お、お……（乱れる呼吸を抑えながら）お前も見たのか？

謎の男 やっぱり見たんだな。

ロイ だ、だ、だ……（乱れる呼吸を抑えながら）騙したのか！

謎の男 お前さん、洗脳されてないな。

ロイ せ、洗脳？

謎の男 まあ、いいや。なあ、俺と組まないかい？逃げたいんだろ？俺が逃がしてやるぜ。

ロイ だ、誰が逃げたいって言った。

謎の男 さっき、お前さんが言ってたぜ。

ロイ い、言っていない。

謎の男 そうか。逃げたくないのか。じゃあ勝手にしな。それと俺のことは見なかったことにしてくれ。

と、謎の男、去ろうとする。

ロイ、それを必死で止めて。

ロイ 嘘つきましたー。逃げたいんです。逃がして下さい。もう嫌なんです。こんなところに居たくないんです。

いんです。

謎の男 そうか、そうか。じゃあ、俺と組むんだな。

ロイ 逃がしてくれるなら、何でもします。

謎の男 よし。じゃあ、何を見たのか詳しく話を聞こうじゃないか。

ロイ 本当ですよ。本当に逃がして下さいよ。

謎の男 分かっている。大丈夫だ。俺に任せろ。

暗転

【2】 土壌調査、鬼と遭遇

三日後。

シエルターの外、森の近く。遠くには街が見える。

土壌調査隊4人とピーターとロレッタが、土を掘り返し、検査キットを使って、土壌を調べている。わずかに生えている草花を採取する者もいる。

因みに、この辺りの草花は白ではなく、黄ばんだような色をしている。

ピーターも見習いとして参加している。調査隊4は、殆ど単独行動している。

防衛隊が、彼らを護衛している。防衛隊の中には、ローダンもいる。ローダン、やや緊張気味。

ローダン

ピーター

ローダン

ピーター

ローダン

ピーター

ローダン

ピーター

ローレット

ピーター

ローレット

ローダン

ローレット

ローダン

ピーター

ピーター

ローダン

ローレット

ピーター

ローレット

ふうー。「感情を抑制することが幸福への道」「感情を抑制することが幸福への道」「感情を抑制することが幸福への道」だ。

ブツブツうるさいな。心が乱れてるぞ。

言うな。

それでよくなれたな、防衛隊に。

それより、そっちはどうなんだよ。

今、調査中さ。

良かったよな。セトさんに相談しといて、さ。

そうだな。

草花って白いだけじゃなかったんだね。

そうだって、なんで君がここにいるんだよ。

私もやりたいって言ったたら、いいよって。

お前、土いじりに興味なんてあんのか？

全然ないよ。

じゃあ、なんで？

僕は何度も何度もセトさんに相談に乗ってもらって、土壌の勉強もして、やっと・・・

見てこれ。めちゃくちゃエゲツナイ色してる。

聞けよ。

確かにエゲツナイ色だな。

ここシエルターの土は、どう違うの？

それを今調べているところ。

ふーん。ねえ、「天空の間」の近くだけ、花がいっぱい咲いてるよね。あれって何で？

ピーター 「天空の間」には近づいちゃダメだろ。

ロレッタ あれ何て名前の花？

ピーター 椿さ。

ロレッタ さすが。やっぱり知ってるんだ。

ピーター 誰かが好きな花なんだ。

ローダン 誰かって？

ロレッタ 誰よ。

ピーター 大切な誰か・・・

と、ロレッタと目が合う。

ロレッタ え？

ローダン え、そうなの？

ピーター いや、違う違う。

ロレッタ 私も違う違う。

二人して「感情を抑制することが幸福への道」と呟く。

ピーター 霧がかかって思い出せないんだ。だけど、その霧がかかった思い出の中にも咲いている花だ。

ロレッタ 分かるわ。私もそういう事あるもの。

ピーター 君も？

ロレッタ でも、いいの。思い出さなくても。

ピーター どうして？

ロレッタ 思い出したくないから、霧がかかっているのよ。

ピーター ……

ロレッタ だから私は思い出さないし、思い出さなくていい。今、私、幸せだもん。

ピーター 幸せ……君の幸せって何だい？

調査隊1 (調査隊4) おい。向こうを頼む。

調査隊4 はい。

調査隊1 君たちも向こうと一緒に調査してきてくれないか？

ピーター はい。

防衛隊長 (ローダンに) 三人の護衛をお願いします。

ローダン はい。

ロレッタ 私の幸せは……、教えない。(去る)

ピーター なんだよそれ。

ピーター、ローダン、調査隊4、去る。

残りの防衛隊は、護衛を続ける。

防衛隊長 (遠くへ) おーい。そのこの新人隊員さん二人、こっちの護衛をお願いします。

別の防衛隊二人がやってくる。

防衛隊の恰好をした謎の男とロイである。

因みに、調査隊が動くと、防衛隊も合わせて動く。

謎の男

あれから見たか？

ロイ

いいえ。この三日間、何も

謎の男

声は？

ロイ

聞こえてきませんでした。

謎の男

そうか。

ロイ

本当に見たんですよ、女の人。こっちを見てニツて笑ってんですよ。

謎の男

誰も疑ってねえよ。

ロイ

「天空の間」っていうのは、エル様しか入れないんです。そこで聞いた天空の声を僕たちに伝えてくれるんです。

謎の男

それが朝闇の儀なんだろう。

ロイ

そうですね。それなのに、そこから女の人って、おかしくないですか？しかも、こっちみてニツ

謎の男

て・・・、ニツて笑ったんですよ。

ロイ

分かった、分かったよ。それにしても、お前は何でも見ちまうんだなあ。

謎の男

やめて下さいよ。

ロイ

鬼に連れて行かれるドクターも見たんだろう。

謎の男

一気に嫌なこと思い出させないで下さいよ。本当はセトさんに相談したかったのに。どうして、こうなっちゃったのかな。

謎の男

セトってのは、あの、科学者か。

ロイ

そうです。エル様の次に信頼されている人です。（防衛隊一の装置を指して）あの鬼撃退装置もセトさんが作ったんです。

謎の男

そいつが一番の悪だな。

ロイ

何を言うんですか。セトさんは、そんな人じゃないですよ。

謎の男

ま、いいじゃねえか。お前はもうすぐ逃げるんだ。

ロイ

そうですね。本当に逃がして下さいよ。

謎の男

当たり前だ。だから、しっかり捜せ。

ロイ

捜してますよ。捜してますけど、正直、まだ信じられないんですよ。

謎の男

じゃあ、何か？俺が嘘をついてるってのか？

ロイ

いや、そうじゃないですけど。大体、なんで捜してるんですか？信じる為の材料が少ないんですよ。

謎の男

俺はお前を信じてる。それで充分だろ。

ロイ

何が充分なんですか。それに俺の何を信じてるんですか。

謎の男

俺は俺の、勘と運を信じてるんだ。その勘が、お前にビンビンに働いてる。

ロイ

一番当てにならないやつじゃないですか。

謎の男

勘も運も実力のうちよ。

ロイ

なんの実力ですか。

謎の男

言っとくけど、見つからない限り、お前を逃がせねえからな。

ロイ

分かってますよ。でも見つかったら、必ず逃がして下さいよ。

謎の男

当たり前だ。

ロイ

約束ですよ。

謎の男

ああ。

ロイ

でも信じられないな、レオンハルト王子が、シエルターに居るだなんて。

謎の男

名前を出すな。バレたら終わりだぞ。

調査隊が動く。それに合わせて動く。

少しの間。

ロイ

しかし、外のセカイって、こんなに美しいんですね。

謎の男

どこがだよ。見てみるよ、あのエゲツナイ色した草。吐き気がするぜ。

ロイ

セカイは、いろんな色で溢れてる。

謎の男

お前、ロマンチストだな。

ロイ

あ、ロマンチストだからですかねえ？

謎の男

何が？

ロイ

洗脳が解けたのは。

謎の男

そんなわけねえだろ。もっと違う理由があるはずだ。

ロイ

違う理由か……。あ！

謎の男

どうした。

ロイ

そういえば「天空の間」の辺りだけ、花がいっぱい咲いてるんですよ。

謎の男

何て花だ？

ロイ

分かりません。花の名前には詳しくないんで。だけど、その花を見た時、忘れていたコトバを思い出

謎の男

したんです。

ロイ

どんなコトバだ。

謎の男

「キレイ」です。

ロイ

は？

謎の男

キレイだなって思ったんです。

ロイ

それで？

謎の男

そしたら、頭の中がパーツと光が射したように明るくなって。

謎の男

ほう。

ロイ

ほとんど忘れてた色んな事を思い出したんです。でも気が付くと本当に光が射し込んで、多分、あれ、朝日ですね。

謎の男

なんでそういうことをもつと早く言わないんだ。

ロイ

仕方ないでしょう。今、思い出したんだから。

謎の男

天空の間ってのは、お前が見たってところだな。

ロイ

あれ？おかしいな。

謎の男

なんだ。

ロイ

いや、シエルターには直接朝日が射し込まないように壁が立っているんです。

謎の男

あの太陽の絵が描かれた壁も、同じ理由か。

ロイ

多分そうです。

調査隊が動く。それに合わせて動く。

ロイ

あ、三代目になってからだ。

謎の男

何がだ。

ロイ

朝日に当たると災いが目を覚ます。

謎の男

朝日が？

ロイ

そうです。三代目になってからシエルターは変わったんです。

謎の男

どう変わったんだ。

ロイ

決まり事が増えたんです。そのお陰なのか、争い事は一つもなくなりましたけど。小さな争いも全て。誰も怒らなくなりましたね。

謎の男

ほう。

ロイ

だけど、笑うことや悲しむことも、なくなった気がするなあ。

謎の男

そうか。心を乱すな、ってあれのせいだな。

ロイ

確かに、心を乱すと災いが起こるって教えられていますからね。

謎の男

災いが鬼を呼ぶってか。

ロイ

そうです。

謎の男

恐怖を煽って、救いを差し伸べる。お決まりの手だ。しかし、それ以外にも、何か強力な力が働いて

ロイ

いるのは確かだ。

謎の男

どんな力です。

謎の男

朝日が怪しいな。

調査隊が集まる。防衛隊は、調査隊を囲むように広がる。

調査隊 1

どうだ？

調査隊 2

この辺りの地下 30 m 付近から、化学反応が検出されました。

調査隊 1

ここもか。

調査隊 3

この辺りの草花からも微量ではありますが化学反応が。

調査隊 2

この森は、もうすぐ枯れますね。

調査隊 1

ここも不明物質に汚染されてる。

調査隊 3

どうしてこんなことに。

調査隊 2

これでは農地を増やすなんて無理だ。

調査隊 1

とにかく今は、持ち帰れるデータは全て持ち帰ろう。

ロレッタの叫び声が聞こえ、逃げ込んでくる。

防衛隊長

どうしたんです？

ロレッタ

鬼です！

ピーターと調査隊4、その二人を守るようにローダンが後ずさりしながら戻ってくる。その向き合っている相手もゆっくりとやってくる。

鬼と呼ばれる者たちは、防毒マスクと防護服に包まれており、異様な風貌である。

防衛隊長

下がって。(防衛隊一に) 光を構えて。

防衛隊一、「感落光」(肩から下げた装置からホースのようなものが繋がった棒)を鬼に向け、威嚇している。

防衛隊長

ここはお前たちの来る場所じゃない。立ち去りなさい。

鬼一

仲間を返せ！

ロレッタ

しゃ、喋った！

鬼2が、鬼の群れから少し離れた。

と同時に、防衛隊長、鬼2に突撃し、組み合いになった。

その時、頃合いを見て、鬼2は隊長に紙を渡す。

防衛隊ー
隊長！

それがキツカケになり、他の防衛隊たちも突撃を始めた。

ローダンは、動けなかった。

調査隊たちは、下がる。

調査隊4は、ピーターとロレッタを守る。ロレッタ、呼吸が荒くなってくる。

ロイは、声は殺してはいるが体が叫んでいる。鬼には立ち向かっていない。

謎の男は、鬼とは組み合わせず、にらみ合っている状態。

鬼3が、ゆっくりとローダンに近づいてくる。ローダン、恐怖で動けない。

因みに、隊長vs鬼2、防衛隊ーvs鬼1、ローダン（ピーターと調査隊4が後ろにいる）vs鬼3、

謎の男（の後ろで体で叫んでいるロイ）vs鬼4

鬼たちは、「仲間を返せ！」「仲間を解放しろ！」と叫んでいる。

防衛隊たちは、「災いは立ち去れ」「心を乱す者は立ち去れ」と強めに言っている。

そんな騒然とした状態が最後まで続く。

ローダン 感情を抑制することが幸福への道、感情を抑制することが幸福への道、感情を抑制することが幸福への道、

ピーター ローダン、逃げろ。

鬼3、ローダンの目の前でピタッと止まり、ピーターを見る。

鬼3

ピーター。

ピーター

！！！！

ローダン

！！！！

と、ローダン、腰が碎け、尻もちをつく。

調査隊4が、ローダンの前に立ち、ピーター、ローダンを下からせる。

謎の男とにらみ合っていた鬼4が、その様子に目を奪われた瞬間、

鬼4

レオンハルト王子？（と呟く）

謎の男

何？（と調査隊4を見る）

調査隊4は、顔を隠すようにローダンと共に下がる。

防衛隊長

下がれ、下がれ。

鬼たち、仲間を返せ！仲間を解放しろ！と叫んでいる。

謎の男

（ロイに）居たぞ、居たぞ、居たぞ！

ロイ

ど、ど、ど、どこに！！

謎の男

そこだ。（と顎で調査隊4を示す）

ロイ

れ、れ、れ、れ！

謎の男

落ち着け。いいか。見張れ。見張るんだ。バレるな。（行こうとする）

ロイ ちよ、ちよ、ちよ、どこ行くんですか!?

謎の男 俺にはやるべき仕事があるんだ。

ロイ 逃がしてくれるんじゃないのか?

謎の男 逃がしてやるさ。だが、まだだ。

ロイ おいおいおい騙したな!

謎の男 必ず迎えに来る。7日だ。7日だけ待っている。7日で戻る。それまで見張ってる。(去る)

ロイ この期に及んで7日は長い!

鬼2 退却だ!

鬼3 お前たちを迎えに来る!必ず迎えに来るからな!

鬼たち去る。

調査隊たち防衛隊たちに守られながら去る。

ピーター、ローダン、ロレッタ、調査隊4、少し離れてロイが残る。

調査隊4 君たち、大丈夫かい?

ローダン 心が激しく乱れた。動けなかった。

調査隊4 いや、君はよくやったよ。

ロレッタ (鬼が立ち去った方を見て) あれが鬼。

ローダン 違う、鬼じゃなかった。

ロレッタ え。

ピーター ああ、あれは人間だ。

暗転

【3―】変わる者、変わらぬ者、変われぬ者

太陽の壁の前。

ピーター、ローダン、ロレッタ、調査隊4、少し離れてロイが、ぐったり座り込んでいる。
そこへ防衛隊長がやってくる。

防衛隊長

今日の出来事について、くれぐれも余計な事は口外しないように。それと（ローダンに）人には向き不向きがある。

防衛隊長、去る。

ロイ 余計な事って、なんだ。

調査隊4 （ローダンに）君は勇敢だった。何も恥じることはない。

ロイ えっと、なんていうか、大変だったな。ま、生きてりゃ、いいことあるさ。

ロレッタ 無理して良いこと言おうとしなくてもいいですよ。

ロイ うん。そうだな。

ヘデラ、男1、女1、2がやってくる。

男1 大変だったみたいだな。

女1

みんな無事でよかったわ。

女2

やっぱり外は危険なのね。

ヘデラ

私なんか、こう、コトバでは言い表せない状態だったんだから。

ロイ

なんで、みんな、知ってるんだ？

ヘデラ

え、調査隊の人たちが話してたから。

ロイ

そうなのか。ますます、余計な事って、なんだよ。

そこへ、エルがやってくる。

皆、体を起こそうとする。

エル

そのまま構いません。他の人たちはどうしました？

ヘデラ

心の乱れが大きい人たちは早くケアをした方がって「真理の間」へ、セトさんが。

エル

そうですか。あとで皆さんも行って下さい。

ロレッタ

私、今までにない乱れを感じました。

エル

心をケアして下さい。(ピーターに) これで分かったでしょう。外のセカイが危険だということが。

調査隊4

怪我人はおりません。

エル

不幸中の幸いですよ。

ピーター

父さん、聞いて欲しいんだ。

エル

ピーター、あなたにはあなたにやるべき事がある。これまで通りの生活に戻りなさい。

男1

しかし、これは誰かが災いを呼び寄せてるって事なのか？

女1

そうだわ、きっと。

女2

そんな、誰が・・・

ロレッタ

皆、心を乱しちゃダメよ。

エル

そうですね。感情を抑制することが幸福への道ですよ。

ピーター

父さん、聞いてよ！（感情を露わにする）

一同、驚く。

特に男一、女一、2は、「災いを呼ぶ者」としてピーターを見つめている。

エル

感情を抑制しなさい。心を乱してはいけません。

ピーター

僕は外のセカイを見た！

ロレッタ

ピーター、落ち着いて。さあ、深呼吸して。

ピーター

ロレッタ、君も見ただろ！

エル

何を見たのです。

ロレッタ

鬼です。鬼を見たんです。

ピーター

あれは鬼じゃない！

ロレッタ

ピーター。

ピーター

あれは人間だった！

ロレッタ

鬼です。鬼でした。人間なわけじゃない。

ピーター

僕は、名前を呼ばれた！

男一、女一、2、後ずさりする。

男一

心を乱す者、それは災いを呼ぶ者。

女1

災いを呼ぶ者、それは鬼を呼ぶ者。

女3

鬼に呼ばれる者、それは鬼となる者。

ローダン

やめろ。

ロレッタ

誰に言ってるのか分かってるの？

エル

皆さん、心を乱してはいけません。

男1、女1、3、走り去る。

エル

何てことを。何てことをしたんだ。自分が今何を言っているのか、分かっているのか？

ピーター

そんなの分からないよ。何が分かってて、何が分からないかなんて。

エル

ここは「幸福の楽園」なんだぞ。ここに居れば、幸せになれる。だから、ここに居られなくなるような事はするな。

ピーター

分からないよ。僕には分からないよ。

ピーター、走り去る。

ローダン

ピーター。

ロレッタ

・・・(呼吸が荒くなる)

ヘデラ

ロレッタ？落ち着いて。心を乱しちゃダメよ。深呼吸、深呼吸して。

エル

(ロレッタに)感情を抑制することが幸福への道ですよ。

ロレッタ、落ち着く。

ロレッタ

エル様、鬼って何なんですか？鬼は迎えに来ると言っていました。鬼はまた来るんですか？私は、ここで、ここに居るだけで幸せなんです。どうか、ここを守って下さい。

エル

今は心を静めなさい。捧げなさい。

ロレッタ

心を天空に捧げます。

エル

ここは「幸福の楽園」です。

エル、去る。

調査隊4

私も失礼する。

ヘデラ

あの、聞いてもいいですか？

調査隊4

どうぞ。

ヘデラ

土壌調査の結果としては、どうなんですか？

調査隊4

かなり厳しい状況です。申し訳ない。

ヘデラ

え。

調査隊4

いや、では、これで。

調査隊4、去る。

ロイ

一体何が楽園なのかねえ……。あ、いや、その、俺もこれで。

ロイ、調査隊4を追う。

ヘデラ ロレッタ、「真理の間」に行こう。私も一緒に行ってあげるから。

ロレッタ うん。心を天空に捧げます。あなたにも。

ローダン 俺は、もう少し休んだら行くよ。

ローダンが一人残る。

ローダン どういう事なんだ。考えろ。考えろ。三日前の奇襲は？今回の遭遇は？鬼とは何なんだ。何が起こっ

ている。何が起ころうとしている。考えろ。考えろ。鬼は人間なのか？待てよ。人間なら、俺たちと同じなら、感情を抑制すれば……。迎えに来るのはいつだ。鬼たちは、いつ来るんだ。

ローダン、去る。

【3―2】

シエルター内の別の場所。

そこに付き人がやってくる。

付き人 投降してきた鬼3匹を回収しました。おそらくディアスが携帯型を使ったのでしよう。防衛隊長がこ

れを（と紙を渡す）

セト （紙を受け取り読む）……。ふうん。（と付き人に返す）

付き人 （紙に通す）満月の夜の可能性が高い、ですか。

セト

付き人

セト

付き人

セト

付き人

セト

付き人

セト

付き人

【3-3】

夜に行動するのでしょうか。だったら明るい方がいい。次の満月はいつです？

7日後です。「天送り」の日です。

唯一のお祭りの日じゃないですか。たっぷりと光を浴びせてやりなさい。

はい。

万全の体制でお待ちしましょうよ、防衛隊長にもそう伝えて下さい。

作戦名は。

プルガトリオ。

プルガトリオ？

浄化です、どうです。

相応しいかと。

シエルター内のまた別の場所。

ピーターがいる。そこにローダンがやってくる。

ローダン

落ち着いたか？

ピーター

今は。

ローダン

そうか。

ピーター

ローダン。

ローダン

何だ？

ピーター

僕、ここを出るよ。鬼と出会って、なんとなくんだけど、分かった事があるんだ。

ローダン

なんだ。

ピーター

霧がかかった思い出の中の花は、この外のセカイにある。そう思う。

ローダン

そうか。

ピーター

ローダン、君も一緒に出よう。

ローダン

・・・。

ピーター

ローダン。

ローダン

7日後がいい。

ピーター

天送りの日。

ローダン

死者を送る日だ。

ピーター

その日なら誰も外に逃げるやつに気付かない

ローダン

俺は、ここから外のセカイを見る。お前は、外のセカイで生きろ。

【3-4】

シエルター内のまた別の場所。

調査隊4がやってきて、立ち止まる。

すると、その後ろで、サツと何者かが隠れる。

調査隊4

あなた下手ですね。尾行するなら、もっとバレないようにした方がいいですよ。
・・・ま、いいでしょう。

と言って調査隊4、また歩き出し、行ってしまふ。

ロイがやってくる。

ロイ バレてるな、これは。バレてるぞ。どうする、どうする。7日も持たないぞ、これは。

ロイ、調査隊4の後を追う。

【3—5】

光が当たり、辺り一面、明るくなる。

ここは「真理の間」である。

人々は光に吸い込まれるように集まってくる。そして、心を天空に捧げる。
やがて、「天送りの儀」に変わっていき、7日後になる。

【4】

7日後。

光が一筋。それは壁の穴から射し込んでいる。

男がゆっくりと倒れていく。それはローダンである。

無反応なシエルターの人々。嘆く鬼たち。

一人の男が駆け寄る。ピーターである。

ローダンを抱きかかえる。

ピーター
ローダン！ロー……ダー……ン……！！！！！！

暗転

【5―1】 国营ラジオ

チューニングノイズが聞こえ、やがて声が聞こえてくる。

ラジオからの声 第7回デルタ会議は、20日後、グレシオ王国にて開かれることが決定しました。本国は、輸出入の規制緩和と、全世界の感情の解放を求めています。会議には、現在休養中のレオンハルト第一王子に代わって、ヒューゲル第二王子が交渉の席に就くことになりました。ヒューゲル王子が政務に就くのは、今回で二度目のこと。不安視する声もありますが、今回、ヒューゲル王子がどのように交渉をするのが争点となりそうです。繰り返します。

【5―2】 狂い始めたセカイの中で。

朝。ガリケリア地区。緑に溢れている。

赤い椿が印象的に咲いている。

「感情解放民間組織」の一室。窓から朝日が射し込んでいる。

大きなテーブルが一つ。その周りには、箱などが椅子代わりに置いてある。ベラが窓際に立っている。そこへ仲間が集まってくる。ミラ、メギ、ハラン、ロベ、バツカリス、アキレアがやってくる。

メギ　　つーか、ミラ、お前、何で止めなかったんだ、バカヤロウ。

ミラ　　え、私、あの、

メギ　　出て行くところ見たんだろ？

ミラ　　う、うん。

ハラン　メギ、そういうテメエは昨日の晩、何してたんだよ。

メギ　　私は、布団に入ったら朝まで目が覚めねえんだよ、バカヤロウ。

ハラン　早寝早起き上等じゃねえか。

メギ　　昔から睡眠だけは欠かせねえんだよ、バカヤロウ。そういうお前は何してたんだよ。

ハラン　マシンを磨いてたに決まってるんだろ。日課だ、バカヤロウ。

メギ　　毎日ご苦労様じゃねえか。

ハラン　勢い余ってテメエのマシンも磨いちまったけど、勝手なことして悪かったよ、バカヤロウ。

メギ　　感謝しかねえだろ、バカヤロウ。

ベラ　　ロベ、状況を説明して。

ロベ　　4人がシエルターへ。

ベラ　　いつ？

ロベ　　昨夜。

ベラ　　どこのチーム？

ロベ
ベラ
ロベ
ベラ
アキレア
ベラ
バツカリス
メギ
アキレア
ハラン
ベラ
ハラン
バツカリス
アキレア
メギ
アキレア
バツカリス
メギ
アキレア

チームイエローです。
ディアスたちね。通信は？
応答なし。今はもう圏外かと。
どうしてこのタイミングで。
物資を届けに行った5人の帰りが、いつもより遅いからな。痺れを切らしたんだろ。
・・・
確かに遅いな。
何かあったんじゃないのか。
何かあったと考えると考えて間違いないな。
そうね。そうかも知れない。
ベラ、今から追いかけて引き留めようぜ。
間に合わんだろう。
私のマシンなら、ギリ行けるぜ。
どうしようか。困ったわね。
追いかけてようぜ。
待って待って、今はタイミングが悪い。
そうだ。
何かあったんなら、助けがいるだろ、バカヤロウ。
何があったのか知らずに飛び込むのは危険だ。
それに今は、「全力の奪還作戦」に集中すべきだ。
お前ら、仲間を見捨てんのかよ、バカヤロウ。
そうは言っていない。

メギ
アキレア
バツカリス
ハラ
ハラ
ミラ
メギ
ハラ
メギ
ミラ
ハラ
アキレア
メギ
ハラ
メギ
ハラ
ハラ
ベラ
メギ
メギ
ベラ
ミラ
ハラ

私らの助けを待ってるかも知んねえだろ。
だったとしてもだ。まずは情報を集めてからだ。
そうだ。行くなら情報を集めにだ。
情報なんか集めてる時間ねえだろ。
あの、わ、私、行きます。
お前、責任感じて行こうとしてんじゃねえよ。
テメエが責任感じさせてんだろ、バカヤロウ。
だったら、悪かったよ、バカヤロウ。ミラ、ごめんだぜ。
き、気にしないで。
やっぱり私が行くよ。必ず連れ戻してやるよ。
情報集めた。
一人で行く気じゃねえだろうな、バカヤロウ。
一緒に行ってくれんのかよ。
お前がいいって言うなら、行くに決まってるだろ、バカヤロウ。
嬉しいじゃねえか、バカヤロウ。
決めたわ。
よっしゃ。
メギは残って。
そりゃねえだろ、バカヤロウ！
駄目よ。ハラとミラに行ってもらおう。
は、はい。
全員連れて帰ってくるぜ。

アキレア

情報集めた。

メギ

私の分も頼むぜ、バカヤロウ。

ハラ

任せろ。

ベラ

(ハラとミラに) いい? 目的は様子を見に行くこと。

ミラ

え?

ハラ

それだけ?

ベラ

それだけ。アキレアが言うように、まずは情報集めを優先して。

アキレア

それがいい。

ハラ

情報集めって言っても、今からじゃ行って帰ってくるだけになるぜ。

ベラ

それでもいい。もし連れ戻せるとしたら、シエルター手前で合流できた時だけ。今は無理してほしくないの。お願い。

ハラ

分かった。だけどシエルター手前で見つけられたら連れ戻していいんだな。

アキレア

情報集めが先だからな。

ベラ

誰も傷つけちゃ駄目よ。危険を感じたら、すぐに帰って来て。

ハラ

分かってる。喧嘩はなしだ。

メギ

無理すんじえねえぞ、バカヤロウ。

ハラ

当たり前だぜ、バカヤロウ。

ミラ

い、行ってきます。

メギ

お前もだぞ、ミラ。

ミラ

あ、ありがとう。

ベラ

準備が出来次第、すぐに出発。

ハラ

任せろ。ぶっ飛ばして行くぜ!

アキレア

情報集めだぞ！

ハラン、ミラ、部屋を出て行く。

アキレア

絶対連れ戻す気で行ったな。

バツカリス

だろうな。

メギ

(ベラに) それで、私は残って何をすればいいんだ？

ベラ

みんな、国防省国境管理局のボダレス元局長を覚えてるわね。

アキレア

忘れる分けがないだろ。

バツカリス

覚えてない奴がいたら、それはモグリだ。

ベラ

亡くなられたわ。

メギ

え。

アキレア

なに？

バツカリス

本当なのか？

ベラ

まだ誰も知らない。知っているのは、ここに居る者だけ。

アキレア

いつだ？

ロベ

昨日。

アキレア

昨日だと。

ロベ

亡くなった正確な時間は分かりません。だけど、知らせがあったのは、昨日の夕方。

バツカリス

だけど、どうして。

ロベ

ボダレス局長の娘さんは「殺された」と言っています。

バツカリス

殺された？

アキレア

ロベ

アキレア

ベラ

メギ

ベラ

メギ

ロベ

メギ

ベラ

メギ

ベラ

メギ

ロベ

ベラ

メギ

バツカリス

メギ

バツカリス

ベラ

メギ

バツカリス

俺たちの計画と関係があるのか？

分かりません。だけど確かに切り離しては考えられません。どうしてだ。

メギ。あなた、娘さんと幼馴染だったわよね？

ノアは？ノアは無事なのか？

あなたに協力を求めている。力になって欲しいって。

ノアが。

国を揺るがす機密情報を持っていると言ってます。

ノアも狙われてんのか？

そう思っただけじゃないわ。メギ、行ってくれる？

行くも行かねえもあるかよ。絶対に助けてやるぜ、バカヤロウ。

ありがとう。そう言ってくれると思った。

ありがとう。

ここに場所が書いてあります。(紙を渡す) まずは、ここへ。

決して無理はしないで。

分かってる。

俺も行く。

一人で充分だぜ。

(ベラに) 行かせてくれ。

それがいいわ。

こういうのは一人の方がカッコいいだろ。

カッコいいか、カッコよくないかは関係ないだろ。

ロベ 敵を作らない。争わない。それが私たちが決めたこと。

ベラ ボダレス局長との約束でもある。

アキレア そうだったな。

ベラ もう少しなのに。もう少し。

ロベ 国は私たちが煙たがっているのかも知れません。

アキレア 俺たちだって同じ感情解放派だ。

ロベ 私たちは過激派ではないから。

アキレア ヒューゲル第二王子を交渉の場に就かせるという事は、この国は過激感情解放派へと突き進んでいる

証拠だ。

ベラ 私たちは、人として感情豊かに生きたいだけなのに。この国はどこへ向かっているのかしら。

ロベ 見失っては駄目です。私たちの目の前に、感情を抑制されている人々がいます。その人々にも感情豊

かな生き方を与えるのが私たちの使命です。

アキレア 戦争が始まってもか。

ベラ そうなったら、皆で逃げましょう。

アキレア どこへ。

ベラ 戦争のないセカイへ。

アキレア どこにあるんだ、そんなセカイ。

ベラ ないなら、作るしかないわね。

ロベ それが私たちの望んでいる事です。

アキレア そうだな。

ベラ 二人とも、ありがとう。

外でハランとミラたちの声が聞こえてくる。
農作業に向かう人々が見送りに来ている。

(ハラン)

ぶっ飛ばして行くぜ、ミラ。

(ミラ)

う、うん。でも、あ、安全運転でね。

アキラア

(外に向かつて) 情報集めだぞ。

(ハラン)

分かっているぜ、バカヤロウ。

(人々)

ゴーゴー、ハラン！ゴーゴー、ミラ！

ブオオオン！ブオオオン！と2台のマシンのエンジン音が鳴る。

困みに、ミラはハンドルを握ると性格が変わるタイプである。

(ミラ)

ついて来れんのか、ハラン！私の前は走らせねえからな！！

(ハラン)

望むところだぜ、バカヤロウ！

(ミラ)

行くぜ、行くぜ、行くぜええええ！！！！いやっほ！！！！！！

(ハラン)

うりゃあ！！！！！！！！

(人々)

いえ！！！！！！！！

ブオオオン！！と音を立てて2台のマシンは去って行く。

アキラア

相変わらずミラは、ハンドル握ったら性格が変わるな。

農作業に向かう途中の男2と女3がやってる。

男2 ベラ、今日から土作りすつから、よかったら見に来てよ。

ベラ 勿論。あとで手伝いに行くよ。

女3 今年も、いーっぱい美味しいのが出来るよ。

アキレア まだ何も育ててもないのに、どうして分かるんだい？

女3 土が元気なのよ。土が元気だから、今から、よく分かるよ。

ベラ 皆のお陰よ。土が元気なもの、私たちが食べ物に困らないのも。

女3 ウチらだけじゃなく、困ってる人に届けてくれる、皆がいるから、ウチらも作んなきゃーって思うんですよ。

ベラ そう言ってくれると嬉しいよ。ありがとう。

人の温かさが印象的に、暗転

【6】二人のスパイ

三日後の昼。

声が聞こえてくる。

チームイエロー(略：TY)たち、「仲間を返せ!」「仲間を解放しろ!」と叫んでいる。

防衛隊たち、「災いは立ち去れ」「心を乱す者は立ち去れ」と強めに言っている。と、騒然としている事が声だけで分かる。

(ローダン) 感情を抑制することが幸福への道、感情を抑制することが幸福への道、感情を抑制することが幸福への道。

(ピーター) ローダン、逃げろ。

(スカビア／鬼3) ピーター。

(TY4／鬼4) レオンハルト王子？(と呟く)

(謎の男) 何？(と調査隊5を見る)

(防衛隊長) 下がれ、下がれ。

チームイエローたちは、仲間を返せ！仲間を解放しろ！と叫んでいる。

(ディアス／鬼2) 退却だ！

(スカビア／鬼3) お前たちを迎えに来る！必ず迎えに来るからな！

ここは、シエルター近くの森。遠くには街が見える。

この辺りの草花は黄ばんだ色をしている。

チームイエロー達が走ってやってくる。ディアス、スカビア、TY4、TY1。

4人、息を切らしながら、マスクを外す。が、ディアスは付けたまま。

スカビア

おい。待て！（ディアスに突っかかり）何故、退却させた。

TY4

落ち着いて。マシンのところまで戻らないと。

スカビア

落ち着いていられるか。10年だぞ。ベラは10年捜し続けたんだぞ。

ディアス

目的が違うだろ。それに危険があった。

TY1

ディアスの言う通りだわ。

スカビア

目的が違うだと？同じだろ！彼らを解放することに違いはない。

TY1

いいえ、今回の、この作戦の目的は何？

スカビア

仲間の解放だ。

TY1

そうよ。まずは仲間の解放が先よ。

スカビア

優先順位なんか、どうでもいい。目の前に、幼いころの面影を残したピーターがいたんだ。

TY4

これは収穫よ。10年も見つからなかった子どもが見つかったのよ。それをベラに伝えないと。

スカビア

さっき危険があったと言ったな。どこに危険があった。言ってみろ。何も起きてない。

TY4

スカビア、落ち着いて。感情が高ぶっているのは分かる。私だって同じ気持ちよ。

TY1

ディアスは襲われたわ。

スカビア

掴みかかられただけだ。

TY1

だから危険が迫ってたのよ。

ディアス

いや、危険が迫ってたのは俺だけじゃない。

TY1

そうね、私も。あの装置を向けられていた。いつ感情を奪われていたか分からないわ。

スカビア

くそっ！

TY4

兎に角、もう一度、出直しましょう。さあ。

TY1

帰ったら皆に謝らないとね。勝手に出てきて、5人を見つucker事もできなかった。

TY4

大丈夫よ。収穫はあったわ。

とTY4、TY1、ディアス、スカビアの順で去る。
間もなくして、防衛隊の恰好をした謎の男がやってくる。

謎の男

ふう。確か、この辺だったはずだ。

謎の男、黄ばんだ草や岩を避け何か探している。

謎の男

お。あった、あった。(とカバンを見つける)

と、その時、TY達が去った方が、一瞬光る。

謎の男

ん？なんだ？

と、謎の男、咄嗟に隠れる。

TY1とTY4が、ボンヤリした表情で歩いて来る。そしてシエルターがある方へ去る。
それを見送るように、謎の男、出てくる。

謎の男

あれは確か。鬼・・・？

声が聞こえる。

(スカビア) ディアス、お前！

謎の男、再び隠れる。

と、スカビアが逃げてくる。

それを追って、ディアスがやってくる。まだ防毒マスクは付けたまま。

スカビア お前、俺たちを裏切ったのか。(と、攻撃する)

ディアス (攻撃を避け) 何か勘違いしているようだから、教えといてやるよ。俺は最初から裏なのさ。
そして、これが表なんだよ。

とディアス、携帯型「感落光」を使うが、スカビアそれを交わす。

スカビア 皆、お前を信じてた。それなのに、どうして。

ディアス どうしてって言われても、困る。内側から破壊するのが俺の仕事だから。信じてくれて、ありがとう。

とディアス、「感落光」でスカビアの感情を奪う。

ディアス 感情を失うと記憶も失うらしいが、どうだい？

スカビア、目を見開いて、何かを思い出そうとしている。

ディアス

今お前は自分が誰なのかも分からないはずだ。だから教えてやるよ。今からお前も、あいつらも、シエルターに行くんだ。そこがお前たちの新しいお家さ。そして無感情兵士となって、お国の為に働きな。分かったかい。

スカビア、ディアスのコトバを聞いて、思い出すのをやめる。ボンヤリした表情に変わる。

ディアス、スカビアの背中をポンと押すと、シエルターの方へ向かって歩き出す。

スカビアは、ボンヤリした表情のまま歩いて行く。

ディアス

さて、戻って、総仕上げと行きますか。

ディアス、逆の方に行く。

謎の男、カバンからシーバーを取り出し、出てくる。

謎の男

ふーん。噂はどうやら間違いないらしいな。それにしても面倒くせえ事を聞いちゃったな。(とシーバーに)俺だ。今、シエルターから抜け出してきた。レオンハルト王子を発見。あまり時間がない。すぐに応援要請を頼む。それと、どうやらシエルターは「無感情兵士」を作ってる。噂通りだった。しかも、敵であるはずの鬼と言われる者たちも吸収している。まあ、シエルターにとっちゃ一石二鳥ってワケだな。

シーバー無反応。

謎の男

ん？おい。聞こえてるか？応答しろ。

シーバー無反応。

謎の男、シーバーを何度か操作する。

謎の男

なんだよ。バッテリーが切れてやがる。ついてねえな。はあ……(と溜息) 中継地点まで戻るか。

少し離れたところからマシンのエンジンが鳴り、去って行く。

謎の男

さっきのやつか。そういやあ、なんか総仕上げとか言ってたな……。

謎の男、気になって、うろつく。

謎の男

いや、俺には関係ない、こともないが、俺には俺のやるべき事がある。すまん。

と、行きかけるが、

謎の男

いや、このまま知らぬ存ぜぬでいいものか……。とはいえ、俺の移動手段が自分の足しか無え。

そこへ俺に残された日数は、確か17日いや余裕を見て16日として、今から中継地点まで戻ると、俺の足でも(と指で数えて)6日は掛かるかも知れねえな。それから応援を要請したとすると、合流に1日か2日。もしシエルトを制圧することになったら……。3日じゃあ無理だな。4〜5日は掛かるぞ……。まいったな。ギリギリだな。それに、あいつに7日で迎えに行くって言っちゃったしな。うーん(とウロウロ)

そこへ、遠くから2台のマシンの音が聞こえてくる。

謎の男

なんだ。戻ってきやがったのか？それはそれで都合がいいや。あいつの乗り物をブン取らせてもらうか。(音の方を見る) いや、違うな。別のやつらだ。どうやら、鬼と言われているやつらの仲間だな。そうかい、そうかい。これも何かの運ってやつだな。あとは物わかりのいい事を願うのみだな。

2台のマシンの音が大きくなって、暗転。

【7ー】 赤い椿は凜と輝いている

三日後の夜。

「感情解放民間組織」の一室。

ベラが窓際に立っている。

窓の外には、もうすぐ満月になる月の光に照らされた赤い椿。
そこへ、ロベとアキレアがやってくる。

ロベ

ベラ

アキレア

ベラ

ロベ　メギとバツカリスから、「ボダレス局長の娘、ノアを保護した」と連絡が入りました。
ベラ　良かった。

アキレア　まだ安心は出来ないぞ。
ベラ　でも、二人が居れば心強い。

ロベ
ディアスが、もうすぐここに来ます。ハランとミラも帰ってきました。どうやらディアスとは行き違

ったようです。

アキレア
ディアスからは事情を聞こう。

ベラ
そうね。

ロベ
ハランとミラは「自称重要人物」を保護したと。

ベラ
自称なの？

アキレア
普通、自分の事を重要人物だって言うか？

ベラ
その人も、ここへ来るの？

ロベ
ボスにしか話さないそうです。

ベラ
そう。分かった。ボスねえ。

アキレア
しかし、三人とも出発に間に合って良かった。

ベラ
ええ。

ディアスがやってくる。

ベラ
ディアス、無事でよかったわ。

ディアス
すまない。勝手なことをして。

アキレア
今は動くべき時ではなかった。

ディアス
考える前に、体が動いてたんだ。

アキレア
他の者たちは。

ディアス
シエルターのやつらにさらわれた。

アキレア
さらわれた？

ディアス

ああ、感情を奪い、連れて行かれた。

アキレア

どういう事だ。

ディアス

感情保存の応用だ。感情をコピーし保存するのではなく、感情そのものを抜き取るんだ。

ベラ

・・・。

アキレア

そもそも、この国で感情の保存は禁止だ。

ロベ

その話が本当だとしたら、これは非人道的行為です。

ディアス

本当だ。シエルターのやつらは、それをやっている。これは間違いない。

ベラ

信じられない。

ディアス

俺は、この目で見た。仲間が、感情を失い、記憶を失っていく様を。それに意思さえもだ。そんなこ

アキレア

とが許せるか？俺は許せない。

ディアス

落ち着いてられるか。人には感情が必要だ。そうだろ？感情を奪われた人間なんて人形同然だ。

ベラ

・・・。

ロベ

噂では、「無感情兵士」を作ろうとしている組織が存在すると。

アキレア

それが、シエルターだって言うのか？

ディアス

そうか、そういう事か。そうだ、そうに違いない。シエルターは「無感情兵士」を作っているんだ。

アキレア

いや、断定するのは早計だ。

ディアス

シエルター内の人々は、既に「無感情兵士」かも知れない。武器を持たずに作戦を実行するのは危険

ベラ

だ。作戦を実行するなら武器の許可を出した方がいい。

アキレア

・・・。

ディアス

ここに武器はない。知ってるだろ。

ベラ

何でもいい。鍬や斧でも。何か持たなければ、多くの人を危険な目に合わせる事になるぞ。

アキレア
ディアス
アキレア
ディアス

情報が少なすぎる。
充分だろ。俺がこの目で見てきた。
お前が見たのは、仲間の感情を奪われるところで、無感情兵士ではない。
俺は、この目で見たんだぞ。目の前で仲間の感情を奪われるのを。もう誰も失いたくない。ベラ、君もそうだろ。

少しの間

ベラ
ロベ

少し時間を頂戴。
ベラ。

ディアス
ディアス
ベラ
ディアス
ベラ
ディアス

時間はないぞ。
よく考えてくれ。頼む。
今日は、もう休んで。明日の朝、出発よ。
分かった。
ありがとう。無事に帰ってきてくれて。
(小さく頷く)……。

ディアス、去る。

アキレア
ロベ
ベラ

俺は作戦の延期を提案する。
私も同感です。
分かっている。分かっているの。だけどって、思っちゃうの。

アキレア

だけど？

ベラ

苦しめられている人たちが、そこに居る。感情を抑制され、もしかすると感情を奪われ、人としての生き方を奪われている人たちが、そこに居る。それは間違いない。

アキレア

そうかも知れない。だが、危ない橋は渡らない方がいい。

ベラ

分かっている。明日の朝まで、時間が欲しい。

ロベ

ハランとミラです。

ハランとミラ、保護された謎の男がやってくる。

ベラ

二人とも、無事で良かったわ。

ハラン

情報を収集してきてやったぜ、バカヤロウ。(と、謎の男を前に進ませる)

ミラ

あの、シエルターの近くで、こ、困ったので、保護しました。

ハラン

重要かつ重大な情報を持つてるらしいぜ。

アキレア

何者だ。

ハラン

それがさあ。

謎の男

(ベラの前まで歩いて行き) お前さんが、このボスだな。

ベラ

ボスって柄じゃないわ。だけど、私が、ここを預かってる。

謎の男

そうか。じゃあ、お前さんに話す。これは、ここにとって重要かつ重大な話だ。

ロベ

それなら全員が聞く権利があります。

謎の男

いや、悪いが、ボスにしか話さない。だから悪いが、他の者はここから出てってくれるか。

ハラン

なんで出て行かなきゃいけないんだ、バカヤロウ。

アキレア

まあ待て。まずお前は何者なんだ。

ハラン
謎の男
アキレア
ハラン

そうだ、テメエは何モンだ。保護した時から、ずっとはぐらかしやがって、バカヤロウ。俺が、何者か。そうだな、まあ、名乗るほどの者でもないんだが……
そんなやつを信じられると思うか。
そうだ。名乗れ、バカヤロウ。

謎の男、窓の外を見る。

もうすぐ満月になる月の光に照らされた赤い椿が妖艶に輝いている。

謎の男
ベラ

キレイだなあ。椿か。

謎の男
ハラン

花に詳しいの？

まあな、好きな花だ。椿……。そうだな、「カメラリア」とでも名乗ろうか。

椿じゃねえのかよ、バカヤロウ。椿見て椿って呟いたら椿何某って言うのかと思うだろ、バカヤロウ。

ベラ
ハラン

カメラリアは椿の学名よ。

謎の男
ハラン

学名？

謎の男
ハラン

そう。俺はカメラリアだ。

洒落てんじゃねえか、バカヤロウ。

謎の男
アキレア

どうだ。名は名乗った。これでいいだろ。

ベラ
ハラン

ふざけたやつだ。

分かった、いいわ。二人だけにして。

信じるのか、こんなやつ。

話を聞いてから決めるわ。それに、悪い人には見えない。そう思ったから保護して連れて来たんで

しよ。

ハラ

まあ、そうだな。それに困ってるやつを見捨てる理由はないからな。

ミラ

あの、私、この人は、必要だと思う。

ベラ

そうね。私もそう信じるわ。

ロベ

では外に出ましよう。

ハラ

もし、なんかあったら叫べ。すぐに来てやるぜ。

ベラ

ありがとう。でも、休める人は、明日の出発に備えて。

ベラと謎の男の二人を残して、皆、去る。

ベラ

実は、あまり悠長に話している時間はないの。

謎の男

そのようだな。

ベラ

さて、何かしら。

謎の男

取り引きをしたい。

ベラ

取り引き。

謎の男

素性は明かせねえが、俺は、重要な任務の途中だ。あるところへ大事な情報を届けなきゃいけない。

ベラ

だが、この肝心な時に、シーバーのバッテリーが切れやがった。だからバッテリーが欲しい。

謎の男

それだけでいいの？

ベラ

ああ、それだけだ。

謎の男

そう。分かった。すぐに用意できるわ。

ベラ

それは助かる。

謎の男

それで、重要かつ重大な話って？

謎の男

ここは、シエルターにいるやつらを解放しようとしてるんだろ？
そうね。

謎の男

民間組織にしちやあ、大した勢力だ。だが、シエルターの事を何も分かつちやいない。

ベラ

どうかしら。先日、シエルターからドクターを解放し、内部の事情は色々聞いてるつもりだけど。

謎の男

そいつから、どこまで聞いてるか知らないが、シエルターにいる奴らを縛り付けているモノが何かは知ってるな？

ベラ

信仰よ。

謎の男

そうだ。シエルターは「三代目」と呼ばれる奴の出現で、オカルト宗教団体みたいになっちまった。

ベラ

その三代目が、「感情を抑制する事が幸福への道」と説いてる。

謎の男

それと、もう一つある。「朝日に当たらないこと」だ。

ベラ

朝日に、何故？

謎の男

「朝日に当たると災いが目を覚ます」と教えられている。まあ、洗脳だ。

ベラ

洗脳ね。その洗脳を解けばいいって話？

謎の男

これが簡単な話じゃない。シエルターにいる奴らは、朝起きても朝日には当たらない。中に太陽の絵が描かれた大きな壁がある。それが朝日を遮っている。そして、そこにいるやつらは、それに向かって心を捧げる事で救われている。この信仰の構造を壊さない限り、洗脳は解けないし、ましてや解放するなんてとてもじゃない。

ベラ

待って。ドクターは、ドクターイラは洗脳が解けたってこと？

謎の男

信仰の構造の何かが欠けた。それで洗脳が解けた。そう考えるのが妥当だろう。そういう奴をもう一人知っている。

ベラ

そう。それを聞いて安心した。

謎の男

重要なのは、ここからだ。お前たちは「三代目」に利用されている。

ベラ

どういうこと？

謎の男

「災いと呼ぶ者、それは鬼と呼ぶ者」と言われている。お前たちは鬼だ。

ベラ

私たちが、鬼？

謎の男
そうやって恐怖を煽ってやがる。そうすりゃあ、更に縋り付きたくもなるんだ。お前たちは、信仰の構造の一部に使われているってワケだ。

ベラ

私たちは、彼らの解放の要求と同時に物資を届けてきた。あの辺りの土地は、もう枯れている。作物は育たないの。

謎の男

残念ながら、物資は届いていない。

ベラ

・・・

謎の男

何か心当たりがあるようだな。

ベラ

仲間が帰らない。物資を届けた仲間が。

謎の男

このままだと、ここは潰される。いや、潰されるなんて生易しいもんじゃない。人間を破壊されるぞ。

ベラ

ちよつと待って。それって、もしかして、「無感情兵士」と関係がある？

謎の男

知ってるのか。

ベラ

私たちは、今、その事について、証拠が欲しいの。シエルターと無感情兵士を結びつける証拠が。

謎の男

証拠なら、ここにある。

ベラ

教えて。

謎の男

俺だ。俺が見た。この目でハッキリと。目の前で感情を奪われるところを。

ベラ

あなたも？

謎の男

俺以外にも見たやつを知ってるのか。

ベラ

ええ。ここの仲間が見たって言っている。

謎の男

そうか。そいつとは話が合いそうだな。

ベラ

まだ信じられないけど、どうやら信じないとダメみたいね。

謎の男

まだある。重大な話だ。

ベラ

何？

謎の男

内通者がいる。

ベラ

内通者。

謎の男

ああ、シエルター側と繋がってる。

ベラ

証拠は？

謎の男

俺だ。

ベラ

また？

謎の男

そうだ。俺が見た。この目でハッキリと。そいつが、自分の仲間から感情を奪うところをだ。

少しの間

ベラ

顔は？顔は見たの？

謎の男

いや、マスクで顔は見えなかった。

ベラ

それで、それを信じろと。

謎の男

信じるしかない。まあ、無理があるのは分かる。

少しの間

ベラ

これを、あなたは、これを伝えに来たの？ 私たちのところに。

謎の男

まあ、そういう事になるかもな。

ベラ

どうして。

謎の男

ついでだ。俺には俺のやるべき事がある。そのついでだ。

ベラ

ついででもいいわ。お礼を言う。ありがとう。

謎の男

さあ、バッテリーをもらおうか。

ベラ

用意する。それにしても、あなたにとっては釣り合わない取り引きね。

ベラ、一度、去る。

謎の男、窓際へ行き、窓の外の赤い椿を眺めている。

謎の男

赤い椿。謙虚な美徳か。悪くない。

ベラ、アキレア、ハラン、ミラ、戻る。

ベラ

明日に備えてって言ったのに。

ハラン

何を話してたんだ、バカヤロウ。

アキレア

俺たちには何も話せない事か？

ベラ

いいえ。話せるわ。全てじゃないかも知れないけれど。

アキレア

それでも共有できる情報は聞いておきたい。

ハラン

そうだぜ。

ベラ

分かってる。

アキレア

(謎の男に) それで、お前は一体何者なんだ。

謎の男

まあ、誰でもいいだろう。知る必要はない。

アキレア

(ベラに) 何か聞いたのか？

ベラ

この人に関するものは何も。

アキレア

それで、いいのか？ それで、何を聞いたか知らないが、本当に信じられるか？

ロベがバッテリーを持ってくる。

ロベ

どうぞ。(と謎の男に渡す)

謎の男

助かる。(とバッテリーを受け取り入れ替える)

謎の男、他の者たちから離れる。

ベラ

待って。

謎の男

なんだ。

ベラ

みんなも聞いて。私たちは、明日の朝、ここを出発する。そして四日後には、シェルターの人たちを

全員解放する。

謎の男

そうか。くれぐれも気を付けろ。

ベラ

確かに危険にさらしてしまうかも知れない。でも、それは、私たちがシェルターの事を知らなさ過ぎ

たから。それが、この人と話して、よく分かった。そして、今は、何をすればいいのかも。

アキレア

解放じゃないのか？

ベラ

解放する。その為に、壁を壊す。

アキレア

壁を？

ベラ そう。シエルターの壁を。

謎の男 それはいい。

ベラ (謎の男) あなたにも手伝って欲しい。

謎の男 なに？

アキレア おいおい。

ハラシ 面白いじゃねえか、バカヤロウ。

ミラ いいと思います。

謎の男 待って待って。

アキレア そうだ。話が急すぎる。

ベラ あなたを信じる。

謎の男 人ってのは、そんな簡単に信じちゃいけないよ。だから騙される。

ベラ そうかも知れない。でも、私は信じる。

ロベとハラシとミラは、ベラと思いは同じ。

アキレア、それを見て。

アキレア 分かったよ。信じるよ、俺も。

謎の男 好きにしてくれ。だが、俺には俺のやるべき事がある。それが先だ。

ベラ それでもいい。お願い。

謎の男 分かった、分かったよ。で、その作戦に名前はあるのかい？

ベラ 「全力の奪還作戦」

謎の男 ダサい作戦名だな。

ハラン
なんだと、バカヤロウ。バツカリスと二人で決めただぞ。

謎の男
よし、こうしよう。「夜明けのランデブー」だ。

ベラ
夜明けのランデブー？

謎の男
今のシェルターには朝日がない。夜が明けてないのと同じだ。だから壁をぶっ壊して、朝日ぶちこんで、夜明けに集おう。

ハラン
テメエ、ロマンチストじゃねえか、バカヤロウ。

謎の男
男ってのはロマンチストなんだよ。

謎の男、他の者から少し離れ、シーバーを操作する。
その様子を、ハラン、ミラ、アキレアが窺っている。

アキレア
どこに連絡するんだ。

ミラ
どこでしょう？

謎の男
応答しろ。俺だ。聞こえるか？俺だ。応答しろ。

謎の女、登場。

別の場所、謎の女、歩きながら、シーバーに答える。

謎の女
アニキ、遅いでヤンスよ。

謎の男
(様子を窺っている気配を気にしながら)今から暗号で言うから、よく聞けよ。
謎の女
ちよちよちよ、ちよっと待って欲しいでヤンス。今、ここはどこでヤンスか？
謎の男
知るか。てか、お前、動き回ったのか？

謎の男

歌だと？

アキレア

ハキダメの森じゃないか？

謎の男

ハキダメの森？

アキレア

あ、すまない。聞こえてきたから。

謎の男

迎えに行くから、待ってろ。そこを動くな。

謎の女

分かったでヤンス。

謎の女、去る。

謎の男

そのハキダメの森までは、ここからどれぐらいだ。

アキレア

マシンで行けば、半日もあれば充分だろ。

謎の男

半日か。俺の足なら、一日ぐらいで行けるか。

アキレア

おいおい。歩いて行くのか？

謎の男

いや、走って行く。

アキレア

そういう問題じゃない。

ハラン

私たちを手伝ってくれるんじゃないか、バカヤロウ。

謎の男

だから、俺のやるべき事をやってからだ。

ハラン

それじゃあ、夜明けにランデブーできねえじゃねえか。

謎の男

どやら、そうなっちまうな

ロベ

ハキダメの森は、ここからですと、シエルターの方向にあります。

謎の男

そうなのか。

ハラン

それじゃあ、ついでに寄って行けばいいじゃねえか。

アキレア

謎の男

ハラ

謎の男

ハラ

ロベ

ハラ

ロベ

ハラ

ロベ

アキレア

ハラ

謎の男

ミラ

ハラ

ベラ

ハラ

謎の男

ベラ

謎の男

ベラ

それが得策だ。

おいおいおい。好き勝手言いやがって。

(ベラに) 私が、カメラアをハキダメの森まで連れて行くぜ。

言っとくが、ハキダメの森が目的地じゃからな。

分かっているぜ、中継地点に連れて行けばいいんだろ？

くれぐれも気を付けて下さい。

当たり前だぜ、バカヤロウ。

ハキダメの森には、陽気なお婆さんが一人で暮らしていると聞きます。

婆さんが？

お婆さんに捕まると、歌を死ぬまで聞かされるとか。

俺は、死ぬまで踊らされるって聞いた事がある。

な、何だって、バ、バカヤロウ。

それは不思議な話だな。

あの、私も、行きます。その、お仲間を、中継地点まで連れて行きます。

お、おう。それが、いいぜ。

二人とも、そうして。

カメラア、ぶっ飛ばして行こうぜ。

こりゃあ、何かの流れに乗っちゃったな。

どうやら、私たち、同じ方向を向いているようね。

そうかも知れねえな。

そうと決まったら、皆、明日の出発に向けて、体を休めて。

ベラ以外、去る。

窓の外の目をやる。

赤い椿が凜と輝いている。

やがて、夜が明ける。

【7-2】出発の時

ベラの元に、人々が集まってくる。

ロベ、アキレア、ハラン、ミラ、謎の男、ディアス、その他大勢。

ベラ

10年前、家族と生き別れになった私を救ってくれたのは、ここだった。生きているのか死んでいるのかも分からない状態だった私は、感情を失っていた。だけど、その感情を癒してくれたのは、ここだった。ここには豊かな自然があり、豊かな人々が集まっている。科学者マクタ・チェグワーカが言った「感情は人類の財産である。感情が心を豊かにし、人生を豊かにする」と、そして「感情は無限の可能性を持っている」と。シエルターの人々は、今、感情を抑制されている。それは人生を失っているに等しい。我々は、その人々を救い出し、ここに受け入れる。だけど決して争いはしない。自分の身に危険を感じたら、恐れず逃げて。行きましよう、全ての人々の豊かな人生の為に。

人々、呼応する。

その中、謎の男とディアス、目が合う。

人々が呼応する中、暗転

【8—1】 国営ラジオ

チューニングノイズが聞こえ、やがて声が聞こえてくる。

ラジオからの声

13 日後に控えた第7回デルタ会議に向けグレシオ王国は、ヒューゲル第二王子を外務大臣に任命し、レオンハルト第一王子の解任を正式発表しました。これにより、グレシオ王国は、過激感情解放派一色となり、近隣諸国への圧力を強める事が予想されます。変わって、自宅で亡くなった、国防省国境管理局ボダレス元局長は、ガリケリア地区の「感情解放民間組織」への寄付を巡ってトラブルに巻き込まれた可能性があるとし、当局は、事情を知ると思われる行方不明の長女ノアさんの行方を追っています。

【8—2】 ピーターの懐疑

土壌調査中の鬼との遭遇から4日後のシェルター内。
ピーターが何かの葉を持って座っている。葉は白い。
小川の近く。
そこへ、ロレッタがやってくる。

ピーター

ああ、ロレッタ。

ロレッタ

ピーター、もう土の事は調べないの？

ピーター

父さんに、行くなって言われてる。

ロレッタ

それがいいわ。

ピーター

本当は行きたい。だけど、また何かあったらダメだからって。

ロレッタ

またいつ鬼がやってくるかも分からないしね。そんなところへ大切な息子を行かせたくない。

ピーター

親として当たり前的事だわ。それに私も、もう外には行きたくない。

ロレッタ

あれは君が勝手についてきたんじゃないか。

ピーター

それと、あなたを鬼にはしたくない。

ロレッタ

僕は鬼にはならないよ。

ロレッタ

だけど、あなたは鬼に名前を呼ばれた。それは間違いない。

ピーター

あれは鬼じゃない。

ロレッタ

いいえ。鬼よ。私たち人間とは違う生き物。

ピーター

・・・

ロレッタ

鬼から身を守らないと。鬼からシエルターを守らないと。

ピーター

ロレッタ。

ロレッタ

「幸福の楽園」が壊される。(と息が乱れる) はあ、はあ、はあ・・・

ピーター

ロレッタ、落ち着いて。さあ、深呼吸だ。心を乱しちゃだめだ。深呼吸。

ロレッタ、落ち着く。

ロレッタ

ピーター、もしまだあの考えが消えないなら、「真理の間」へ行きましょう。私も一緒に行ってあげるから。

ピーター

・・・。

ロレッタ

ここで一緒に大人になろう。ここで一緒に「幸福の楽園」を作って行こうよ。

ピーター

・・・。

子どもたちの声が聞こえてくる。

(子ども)

ピーター、こっち来てよ。葉っぱの舟を流しに行くよ。

ピーター

(子どもたちに)すぐに行くよ。待ってて。(ロレッタに)行くよ。

ロレッタ

子どもたちにもピーターがいないと。

ピーター、行こうとして、

ピーター

ねえ、ロレッタ。幸福って何だろう？

ロレッタ

考えなくても、あるじゃない。ここに。あなたは充分、与えられてるのよ。ね？

少しの間

ピーター

僕には、分からないよ。分からないんだ。

ピーター、去る。

【8-3】監視する者たち

同じくシエルター内の別の場所。

調査隊4が、小型の望遠鏡（海賊が持ってるようなやつ）を取り出し、遠くを見ている。調査隊の恰好はしていない。

その後ろにロイがやってくる。二人の距離は、絶妙に微妙な距離感。

ロイ
（調査隊4に一步近づいて）昨日は「真理の間」、今日は「天空の間」。毎日一体何を見てるんです？
調査隊4
あなたは知らない方がいいですよ。

と、ここ数日で会話する程の距離感になっている。が、ロイは調査隊を監視している、つもり。

ロイ
（一步下がる）そうですね。
あまり知り過ぎると、危険な目に合いますよ。
ロイ
気を付けます。（もう一步下がる）
調査隊4
だけど、私の監視は続けて下さって結構ですから。お気になさらず。
それはどうも、助かります。いや、あなたを監視してないと、逃がしてもらえないもんで。
調査隊4
普通、監視する人に、そういう事は話さない方がいいんですけどね。
ロイ
そうですね。ええ、今後気を付けます。
調査隊4
いえいえ、言い過ぎました。お気になさらず。
ロイ
あ、（調査隊4より前が出る）誰かと誰かが入って行きましたよ。
調査隊4
エルさんとセトさんですね。

と調査隊4、ロイを見る。

ロイ
あ、これは大変失礼しました。(と言いながら下がる) あまり知り過ぎると、危険な目に合いますよね。しかし、変だな。

天空の間は、エル様しか入れないはずなのに。

調査隊4

そんなことないですよ。私を知る限り、彼らは必ず二人で入っています。

ロイ

そうなんですか。(調査隊4に近づく) 確かに、あの二人は、信頼しあっていますからねえ。

と調査隊4、ロイを見る。

ロイ

あ、これはこれは度々失礼しました。(と言いながら下がる)

少しの間

ロイ

今の僕ですか？

調査隊4

いえ、私もつい喋ってしまいました。すみません。

ロイ

いえ、気を付けて下さいね。

調査隊4

はい。

ロイ

あ、すみません。

【8-4】 広がるほころび

天空の間

天窓から光が射しこんでいる。

部屋の中にも、花がチラホラ咲いている。主に、白い椿である。

エルとセトがいる

エル 人々の信仰が薄れ出しているぞ。鬼への恐怖と食料不足の不安が勝っている。
セト 全部じゃない。一部だろ。

エル 一部であろうと何とかしろ。小さなほころびが、やがて取り返しのつかない事になる。人々は不信感を抱く。それが伝染してみろ。「幸福の楽園」は崩壊するぞ。

セト 考えすぎだ。

エル いや、考えろ。考えるんだ。人々に与えなければいけないのは、不安や恐怖ではない。幸福だ。どうだ、今、シエルターには不安と恐怖が蔓延している。

セト 俺はそうは思わない。

エル 俺はそう思う。人々の目を見れば分かる。不安と恐怖が目の中にチラついている。

セト、鼻で笑う。

エル 何がおかしい。

セト いや、お前がホンモノみたいな事をいうからさ。
エル なんだと？

セト

お前は教祖を演じているだけだろ。ホンモノじゃない。

エル

ここで俺はもうホンモノだ。人々は俺の声を信じている。

セト

人々が信じているのは、お前の声じゃない。天空の声だ。いや、シアの計算された真理だ。

エル

だったら、シアにしっかりと計算させる。少しの誤差もないようにな。

セト

シアの計算に狂いはない。人類の全てを学習させてある。シアは完璧だ。

エル

じゃあ何故こんな事になっている。

セト

今までもこんな事はあった。そのうち落ち着く。

エル

やがて人々は、俺に疑いの目を向けるだろう。俺には分かる。毎日、朝闇の儀で、人々の目を見ている俺だから分かる。毎朝、俺は人々に「心を乱してはいけない」と言いながら、俺がニセモノだといつか気付くのではないかと、俺の心は人知れず乱れているんだ。分かるか？人間じゃないシアに、この気持ちが分かるのか？

少しの間

セト

確かにシアは人間じゃない。だが、今のシアには、人間だった頃のシアの感情を持たせて学習させてある。人の気持ちは分かる。本当にそうか？今はもう人間を超えた存在だぞ。

エル

少しの間

セト

シアの事はいい。

エル

すまない。言い過ぎた。

少しの間

エル たった10年で、ここまでやってきたんだ。俺とお前でやってきたんだ。

セト ああ、そうだ。

エル まだまだこれからだ。もっと人々に幸福を与えよう。不安や恐怖ではなく、幸福を与えるんだ。
セト なんとかする。だから心配するな。お前は、堂々と教祖を演じていろ。

エル、去る。

セト 俺とお前じゃない。俺とシアが作ってきたんだ。お前は飾りだ。飾りが壊れたら、取り替えるだけだ。

【8-5】ハキダメの森

昼過ぎ。

昼過ぎだが、辺りは薄暗い。

森の木が生い茂り過ぎるワケではない。その木々や枝などに、不法投棄されたものが引っかかっている。よって光が射し込まない。

森そのものがハキダメで出来ているようである。

そして、腐敗した不要物が形を失いつつある。時々、枝に引っかかった不要物が崩れて落ちてくる。

ハラ
ン

なんか不気味じゃねえか、バカヤロウ。

ミラ

あの、聞いていた以上ですわね。

謎の男

まるで人間の欲望のハキダメだな。ここへ捨てたところで、欲望がなくなる訳じゃないがな。

ハラ
ン

歌は？聞こえねえか？

ミラ

えっと、き、聞こえないわ。

謎の男

(大声で) おーい！迎えに来たぞー！

と大声を出した為、ハキダメに巣を作っている鳥が数羽、羽ばたいた。
そして、不要物が崩れ、パラパラと降ってくる。

ハラ
ン

急に叫ぶなよ、バカヤロウ。婆さんが出てきたら、どうすんだよ。

謎の男

どうもしない。

ハラ
ン

死ぬまで歌を聞かされるか、踊り殺されるぜ。

謎の男

そんな話を信じてるのか。

ハラ
ン

そういう事があるから、話が広がるんだぜ。

謎の男

死んだやつが話を広めるのか？

ハラ
ン

え？

ミラ

あ、あれ。(と何かを見つける)

謎の女の靴である。片方だけ。

ミラ、近づき、それを拾う。

ミラ

く、靴だわ。

謎の男

あいつの靴だ。

ミラ

な、何故、片方だけ。

謎の男

ここで脱ぐ理由があるとは思えんな。しかも片方だけ。

ハラ

やっぱり、捕まったんじえねえか？

ミラ

そ、それは考えられるかも。

謎の男

いや、それはないだろう。

ミラ

ど、どうしてです？

謎の男

あいつが本気で逃げれば誰も追いつけねえ。超人的な脚力の持ち主だからな。

ハラ

しかも極度の方向音痴。

謎の男

そうだ。

ハラ

見つけられる気がしねえぜ。

と、その時、仕掛けてあった網が三人を包み込む。驚くほど古典的な罠に掛かって捕まる。

謎の男

しまった。

ミラ

な、なに？

ハラ

し、死ぬぞ、バカヤロウ。

遠くから声が聞こえてくる。「チエ、チエ、チエケラ、チエチエチエケラ、チエケラツチョ♪」

ハラ

おいおい、何か声が聞こえるぜ、バカヤロウ。

暗転

【8-6】ハキダメの森のスナック『ツル』

内装はハキダメの不法投棄を集めて作られたのか、どこかレトロな雰囲気漂っている。

※因みに、スナックとはカウンター越しにお酒や軽食を提供する場所である。

ここにはカラオケもあるのか、小さなミラーボールがある。

カウンターには、4体の人形たちが座っている。

謎の男、ハラン、ミラ、入口辺りで立って店の中を見渡している。

ツル、微妙な韻を踏みながら喋っている。人形「イエ」で相槌を打つ。

ツル

Yo!Yo!やんやんやんと、ここはどこだどこだって、空気が言っちゃってるし、

No!No!なんだかんだと、愚か愚かどうかって、勇気が減っちゃってるし、

だからと言って、早々、帰すワケにはいかないし、方法、変えるわけにはいかないし、

もうもう、今はとにかく、ここに大人しく座りな。

人形たち

イエ。ドンドンターツタツッター、ドンドンターツタツッター、ドンドンターツタツッター、ドンドンターツタツッター。

と、リズムの中、謎の男、ハラン、ミラ、カウンターの椅子に座る。

人形たち

ドンドンターツタツッター

ハラ

少し思ってたのと違うぜ。

人形たち

ドンドンターツタツター

謎の男

ここはスナックだな。

人形たち

ドンドンターツタツター

人形たち

ドンドンッ

ツル

Ｙ〇！ 言っとつけど、まだまだなのよ全然、営業時間じゃないんだけど、

Ｙ〇！ 知っとけよ、ガラガラなのは延々、営業時間とか関係ないから、

おろおろしながら、きよろきよろしながら、店ん中ガラガラ？ 悲惨なんか今さら、

そんなことはいつでもほっとけ、そんなことより水でも飲んどけ。

人形たち

ウオ、イエー。 んっお、っお、っお、っお。

と、汚いコップに入った水を3つ、リズムに合わせて、

人形たち

んっお（一つ目）、っお（二つ目）、っお（三つ目）

ハラ

汚え。

ツル、鬼の形相で睨んでいる。

人形たち

（太い声で）イエー。ドンドンター、

ミラ

ハラ。

人形たち

ドンドンター、

ハラ

・・・。

人形たち

ドンドンター、

人形たち

ドンドンッ

ツル

Ｙ〇！ こんな森の奥深くの洒落たスナックに、どういう用？

人形たち

ウオ、イエー。

ツル

人形たち

ハラ

人形たち

ミラ

ハラ

ツル

人形たち

ハラ

人形1

ハラ

人形1

人形2

人形3

人形4

ハラ

ツル

ハラ

ツル

間違はなくこの伝票はホンモノ、見逃してなければ現行犯そのもの、だけでもあいつはエンドランだもの、代わりにお前ら窃盗団みたいなもの、払わないなら呼ぶぜ弁護士、途端にお前らデッドマン。おっイエ、おっイエ。

うるせえな、さっきから、イエイエイエイエ、ドンタドンタ、ズンチャズンチャ。

(太い声で) イエ。

(ツルに) あの、ちょっと、お話の途中すみません。さっきから、あの、あなた、韻を踏んでません？

いん？

よく気付いたな、お前はお墨付きだよ。私らとウインクキラード遊ぶか。(ウインク)

キラーン。(ウインク)

なんで韻なんか踏んでんだよ。

今、ツルさん、ラップにハマってるから。その前が、ヒップホップだったから、その流れで。

どうりで変な喋り方すると思っただぜ。

楽器にハマってた頃は、一人でオーケストラが出来るまでの演奏技術を身に付けたのよ。

ダンスにもハマったし、読書にもハマったし、歌にもハマったし。

もう殆どやりつくしてると思うんだけど。芸術に果てはないのね。

で、今はラップを練習中。

なんか、まどろっこしいぜ。普通に喋ってくれ。

いいだろ。言っとくが、私は怒ってるんだ。

え、そ、そうなのか。

あの女、(テーブル、ドンドン) 散々食い散らかしといて、お手洗いにいったきり帰って来なくなったのさ。

ツル 感情を次から次に使い捨てるようなやつを私は許せないね。(テーブル、ドンドンドン！)

ハラ ン おいおい、落ち着け落ち着け。

ツル どんなに小さな感情にも必ず記憶がある。だから温もりがある。匂いがある。景色だってある。それは生きた証そのものだ。それさえも捨てているようなものだ。

謎の男 ほう。話が合いそうだな。

ツル それだけでも私は怒っているのに、ここに捨てられた感情が、どうなっていったか知ってるかい？

ハラ ン いや。

ツル 不法投棄されたモノたちに、感情がしみ込んでいったのさ。

謎の男 それは厄介だな。

ツル 要りもしないモノを与えられてしまったようなものだ。例えば、ここにいる人形たちだってそうだな。

本来、そのモノの感情ではない感情を持つちまった。だからこの子たちは、その感情を持っていた人間の命の一部を持っているんだよ。それが、どれだけ辛い事か。

(喜) ツルさん、ありがとう。いつも私たちの味方で。(怒) 本当は、いつか持ち主に返したいけど。

(哀) そんな簡単に行く話じゃない。(楽) ははははー！

ハラ ン これは、確かに辛そうだな。

謎の男 しかし悪いが俺たちも、ここに長居する訳には行かない。

ハラ ン そうだ。ここに、カメラアの仲間がいないのは明らかだぜ。

ミラ そ、そうですね。

謎の男 あいつ、どこ行きやがったんだ。

ハラ ン グズグズしてねえで行くぜ、バカヤロウ。

ツル (テーブル、ドン！) ちよっと待った待った、逃亡犯だ、いいのか？このまま行くと共犯者って事だが、それでいいのか。

人形たち

イエイエ!

ツル

それに話は終わってないよ。その前に、この支払いをしてもらおうじゃないか。

人形たち

雁首揃えて払ってもらいまひよか。

謎の男

(ハランに) おい。銭持ってるか?

ハラン

いや。

謎の男

(ミラに) お前さんは?

ミラ

同じくです。

謎の男

まいったな。悪いが誰も持ってないようだ。また後日じゃ駄目か?

ツル

そうやって、逃げる気だろ。

謎の男

いや、そこは信じてもらうしかない。

ツル

信じられん。ここにいるモノたちは、「信じる」という事はしない。信じ続けて裏切られてきたのさ。

謎の男

そう言われてもな。

ツル

あんた達、私が、何歳に見える。

ハラン

ああ、これヤバイ質問だぜ。女性の年齢を答えるのは、かなり危険だ。

ツル

ごちゃごちゃ言ってるんで、何歳に見えるんだい。

ミラ

当てたら、あの、見逃してもらえますか?

ハラン

それ、いいじゃねえか。

ツル

ああ、いいとも。さあ、何歳だい?

謎の男

うーん。

ハラン

70歳。

謎の男

おい。

ツル、鬼の形相で睨んでいる。

人形たち

(太い声) イェー。

ハラ

ほら。これでもサバ読んだ方なのにく。

謎の男

120歳。

ツル

おお

人形たち

おお

ハラ

こらこらこらこら。

ツル

しゅー!! 惜しい!

人形たち

あーくん! 惜しい! おCー!

ハラ

嘘だろ。

ツル

125歳でまんねん。

ハラ

ええ!!

人形たち

(同時に) ええー見えなく

ミラ

見えなくです。

ツル

よくそう言われるのよ。ま、言われるのは、この子たちにだけ。

ツル そうさ。そして、またここに捨てられた。

ハラシ だけど、今はもう違うだろ？

ツル 国はね。だけど最近になって、また人から感情を抜き取っているところがある。やっぱり私はそれが許せない。

謎の男 それがシエルターだな。

ツル そうさ。10年ぐらい前からシエルターは変わってしまった。最初は感情を抑制しているだけだったらしいが、いつの頃からか、どんどん感情を抜き取って、ここへ捨てに来る。しかも変な壁なんか作っちゃまって。ろくに太陽が当たらないもんだから、土の寿命までもが尽きようとしている。可哀そうに。

ハラシ 土が死ぬのか？

ツル この世に存在するモノは、全て生きている。どんなモノでも。だから、そのモノにはそのモノの感情がある。勿論、この人形たちも生きている。感情も記憶も持っている。まあ、今は他人の捨てられた感情を受け入れてしまったが。しかし、この世に存在するモノはいつか老いて行く。それでいい。その命が自然と尽きていけばいい。その時、感情も一緒に持っていけばいい。人が与えたり奪ったりするなんて、おかしい話だ。私は間違っていると思う。

外で、パサーッと、仕掛けの罫が動いた音。

ハラシ なんだ？

人形たち 罫に何かが引っかけた！

人形たち 「チエ、チエ、チエケラ、チエチエチエケラ、チエケラツチョコ♪」と歌いながら出ていく。

ハラ

ずっと罨を張ってるのか？

ツル

何かあるか分かったもんじゃないからね。

謎の男

婆さん。土を生き返らせる事は出来るのかい？

ツル

死んだモノは生き返らないよ。

謎の男

そうだな。じゃあ、もしまだ生きていたら。

ツル

可能性はある。

謎の男

成る程。

ツル

あそこの、あのシエルターの土を生き返らせようって考えてるのかい？

謎の男

出来るかい？

ツル

私と思うに、あそこの土は、あそこの人間同様、感情を奪われているに違いないね。

謎の男

じゃあ、どうすりゃあいいんだ？

ツル、カウンターの下から、時代劇で見るとような酒瓶を出す。達筆な字で『情熱』と書かれている。

ツル

(テーブルに、ドン！) こいつを土に飲ませな。

謎の男

なんだいこりゃ。

ハラ

酒？

ツル

自然の中で発酵させた、感情と記憶の酒、その名も『情熱』さ。こいつを土にぶちまけてやりな。

ハラ

おいおい、土が酔っぱらわねえか？

謎の男

もらってもいいのかい？

ツル

伝票に付けとくよ。あと、それも持っていきな。(と片方の靴を渡す)

と、すぐ人形たち戻ってくる。

人形たち

空だったー！

ツル

そんな時もある。

謎の男

嫌な予感がする。先を急ぐぞ。婆さん。

ツル

ツルって呼んでおくれ。

謎の男

ツルさん。借りは必ず返しにくるぜ

ツル

当たり前だ。払うもん払いに来な。だが、信じてないけどね。

謎の男

そうか。

ツル

いつでも来たい時に来な。ここで待ってるよ。ハキダメの森でね。

人形たち

よっ！ハキダメのツル！

謎の男

(ハランとミラに) 行くぞ。

と、謎の男とハランとミラ、去る。

陰から、それを追いかける防毒マスクの姿。

【8ー7】ハキダメの森を抜けて

謎の男、ハラン、ミラ、走ってやってくる。

謎の男、シーバーで謎の女と連絡を取る。

謎の男

おい。応答しろ。

謎の女、やってくる。やや小走り。当然、靴は片方しかない。

謎の女

あ、アニキでヤンスか？

謎の男

お前、今、どこにいる。

謎の女

ずっとトイレを探してるでヤンス。

謎の男

もうそこは店じゃないぞ。

謎の女

どうりで広い店だなど思ってたでヤンス。

謎の男

今、どこにいるんだ。

謎の女

それが分かったら苦労はしないでヤンス。

謎の男

おい、お前、走ってないか？

謎の女

流石アニキ。よく分かったでヤンスね。

謎の男

だから、動くな。

謎の女

トイレを探してるでヤンス。動くに決まってるでヤンス。

謎の男

生まれ、生まれ。見つけられなくなるだろ。

謎の女

間に合わないでヤンス。

謎の男

いいから、生まれ。

謎の女

アニキ、意地悪でヤンス。

謎の女、ピタッと止まる。

そこへ、マシンがドン！

謎の女

うえっ！

と漫画のように吹っ飛ばされる。

謎の男

どうした！

謎の女、起き上がり。

謎の女

間に合わなかったでヤンス。(パタと倒れる)

謎の男

おい。大丈夫か？おい。応答しろ。

その間に、マシンから人が降りてくる。

メギ

大丈夫か、バカヤロウ。

謎の女

うう……。(泣いてる)

メギ

おい、バツカリス、手伝ってくれ。

と、謎の女、連れて行かれる。マシンもハケる。

謎の男

くそ。兎に角、マシンまで戻ろう。

ハラ

何があったんだ。

と、走り出すが、謎の男が殺気を感じ止まる。

ハラン どうしたんだよ。

謎の男 来た。

ハラン 何がだよ、バカヤロウ。

鉄の棒を持った防毒マスク（ディアス）が立っている。

謎の男 お前か。

ミラ チームイエロー。

ハラン 良かったぜ。他のやつらも逃げてきたんだな。

謎の男 違う。

防毒マスク、襲い掛かってくる。

三人、よける。

ハラン な、何やってんだ、バカヤロウ。

とハラン、鉄の棒で、腹を殴られる。

そして、「感落光」で、感情を抜き取ろうとする。

謎の男、助けに行く。

が、防毒マスクがそれをよけ、攻撃してくる。
謎の男、それをよけ、一発攻撃する。

謎の男

これを持って逃げろ。

と、ツルからもらった酒瓶を放り投げる。

それをミラが受け取る。

それに反応し、防毒マスクが動く。

謎の男、それを阻止。

ハラン

お前は、どうすんだよ、バカヤロウ。

謎の男

すぐに追いかける。だから行け。

ハラン

くそ、バカヤロウ。

とハランとミラ、去る。

謎の男

思ったより早かったな。

防毒マスク

・・・。

謎の男

来ると思ってたよ。

防毒マスク

・・・。

謎の男

あの、ベラって人は、みんなの事を信じてるからな。話してるうちに思ったよ。お前にも話すってな。

防毒マスクが攻撃してくる。
謎の男、よけるが、防毒マスクの次の攻撃の方が早く、殴られる。
マシンの音が聞こえてくる。
防毒マスク、逃げる。

謎の男

待て。

ハラン、ミラ、マシンでやってくる。

ハラン

カメラリア、大丈夫か、バカヤロウ。

ミラ

乗れ！追いかけるぞ！

謎の男、ミラの後ろに乗る。

ミラ

行くぜ、行くぜ！しっかり掴まってるよ！

2台のマシン、走り去る。

入れ替わりで、防毒マスクの乗ったマシンがやってくる。
すぐに2台のマシンが追いかけてくる。

ミラ

待てコラアアア！！

ハラシ 逃げんじゃねえぞ、バカヤロウ！

防毒マスクのマシン、突然反転し、2台のマシンに向かってくる。
2台のマシン、分かれてよける。

ミラ 危ねえだろ！コラアア！

防毒マスクのマシン、すぐにまた反転し逃げる。

ハラシ 逃がすか！

と、逃げる防毒マスク、追うハラシ、ミラの順に進む。

防毒マスクが、「感落光」をハラシに向け、放つ！

よける、ハラシ。

防毒マスク、もう一度、放つ！

ハラシのマシンに当たる。

途端に、ハラシのマシンのスピードがどんどん落ちる。

ハラシ おいおいおい。どうしちゃったんだよ、バカヤロウ。

ミラ そうか。マシンの感情が奪われたんだ！

ハラシ なんだと！おい！元氣出せ、バカヤロウ！これが終わったら、また磨いてやるからよ、ぶっ壊れん
じゃねえぞ、バカヤロウ！元氣、出せええ！

ハランのマシン、どンドンスピードが落ちる。

謎の男

(ミラに) おい。酒を。

ミラ

何言ってるんだ！今それどころじゃねえだろ！

謎の男

いいから、寄越せ！

と酒の瓶を掴み、

謎の男

ハラン、受け取れ！（と放り投げる）少しだけぶっかけろ！

ハラン、酒を口に含んで、マシンに吹き掛ける。

すると、スピードが戻ってくる。

ハラン

良かった！元気になった！良かったぜ、バカヤロウ！

謎の男

こいつは大したモンだ！ホンモノだ！

防毒マスク、鉄の棒で攻撃を開始する。狙いは明らかに謎の男である。

防毒マスクのマシンとミラのマシンが横並びになる。

防毒マスク、攻撃してくる。ミラ、謎の男、よける。

今度は、ハランが追いつき、防毒マスクと横並びになる。

ハラ

テメエ、何モンだ、バカヤロウ！

防毒マスクのマシンに蹴りを入れるが、よけられる。
防毒マスク、ハラ、ミラと謎の男の順に進む。

ハラ

ミラ

ミラ、この先は、湖だ！こいつのマシンは水陸両用だ。
なんだと、逃がすか！

◆ハキダメの森を抜けて行く。(舞台が転換されて行く)
やがて、湖が近付いてくる。

ミラ

待てコラアア！！！！！！！！

ハラ

くそー！！！！追いつけねえ！！！！

防毒マスク、そのまま湖を走って逃げてしまう。
ハラ、ミラと謎の男、急ブレーキ。
エンジンを切る。

ミラ

くそ！覚えろよ、コラアア！！！！

ハラ

今度、会ったらぶっ飛ばすからな、バカヤロウ！！

謎の男

二人とも大丈夫か？

ハラ

カメラア、お前は知ってるのか、あいつが何者か。

謎の男

名前は分からん。出発の時に目が合っただけだ。(と、シーバーを取り出す)

ミラ

この湖を真っ直ぐ行ったってことは、本体に合流する気だな。

ハラ

くそ。ベラから危険な事はするなって、いつも釘刺されてなのに、つい、やっちゃったぜ、私のバカヤロウ。

ミラ

大丈夫だ。ベラも分かってくる。

ハラ

ありがとう。そうだな。

謎の男

おい。俺だ。応答しろ。おい。

謎の女、やってくる。

謎の女

アニキ。

謎の男

大丈夫か？

謎の女

大丈夫だけど、大丈夫じゃないでヤンス。

謎の男

何があった？

謎の女

あまり聞かないで欲しいでヤンス、悲しくなるから。でも今は、凄く親切な人たちの乗り物に轆かれて、すぐに助けてもらってたでヤンス。

謎の男

お前、轆かれたのか。

謎の女

轆かれたでヤンス。あ、でも大丈夫でヤンスよ。とても親切な人たちに轆かれて、ホツとしてるでヤンス。

謎の男

無事ならいいが。気を付けろよ。

謎の女

アニキが止まれているからでヤンス。それで、ドンって、極上に親切な人たちが私を轆いたでヤンス。

謎の男
謎の女

分かった、分かった。それより今どこだ。
何度もいうでヤンスが、それが分かれば苦労はしないでヤンス。

と、メギがやってくる。

メギ

代われ。

謎の女

どうぞでヤンス。

メギ

おい。お前、保護者か。こっちは急には止まれねえんだよ、バカヤロウ。

謎の男

とても親切とは思えないやつが出てきたぞ。

ハラン

ちよっと代われ。(とシーバーを受け取る) おい。お前、そこで何やってんだ、バカヤロウ。

メギ

こっちは親友に磨いてもらったマシンを傷付ける訳には行かねえんだよ、バカヤロウ。だから、気を

つけろって言ってんだよ。

ハラン

だからお前、そこで何やってんだっつってんだよ、バカヤロウ。

メギ

だから、お前んとこのチビが急に止ま・・・、おん？ハランか？

ハラン

そうだよ、バカヤロウ。無事か、メギ。帰ってきたらお前が別の任務に出かけたっていうから心配し

てたんだぜ、バカヤロウ。

メギ

無事だよ、無事。そっちは今シエルターに向かっているのか？

ハラン

いや、こっちも別の任務で、さっきまでハキダメの森にいたぜ。

謎の男

知り合いか？

ハラン

知り合いじゃねえよ、親友だぜ、バカヤロウ。

謎の男

よし。でかした。代われ。(ハランから受け取る)

ハラン

なんだよ。

謎の男

おい。ハランの親友。聞いてくれ。

メギ

お前、誰だよ。

謎の男

そこにいるやつ仲間だ。一つ頼みがある。そいつと一緒にシエルターに行ってくれ。

メギ

シエルターに？

謎の男

そこでハラんと落ち合え。俺もすぐに後を追う。

メギ

待って待って、色んな事を勝手に決めんな。こっちは今、重要な任務に就いてんだよ。保護しなきゃ行けない奴がいるんだよ。

謎の男

誰だ。

メギ

言えるかよ。

謎の男

心配するな、言え。

メギ

お前が誰か分かんねえのに言えるか、バカヤロウ。

謎の男

(ハラんとミラに) こいつは、誰を保護してんだ。

ミラが代わって欲しいと謎の男に。当然、ハンドルから手を放している。

ミラ

メギ、あの、大丈夫。この人の言う通りにして。大丈夫だから。

メギ

ミラ、本当に大丈夫か？

ミラ

大丈夫。あの、この人は、わ、私たちの仲間だから。

メギ

ミラが、そういうなら。分かった。シエルターに行くよ。

ミラ

ありがとう。(と謎の男と代わる)

謎の男

で、誰を保護してんだ。場合によっては、力になれるかも知れん。だから教えろ。

メギ

ノアだ。国防省国境管理局ボダレス元局長の娘、ノアだ。

謎の男
でかした、でかした、でかしたぞ。今、そこにいるのか？いたら、代わってくれ。
メギ
なんなんだよ、ワケが分かんねえぜ。

ノアがバツカリスに伴われやってくる。
メギ、ノアにシーバーを渡す。

ノア
ノアです。あなたは、どなたです？

謎の男
申し訳ありません。今は重要な任務に当たっているため、本名を名乗ることは出来ません。今は、カ
メリアと。

ノア
カメリア。ステキな花ですね。

謎の男
まずはお父様のこと、心中お察しします。

ノア
いえ、ご丁寧に。

謎の男
早速で申し訳ありませんが、今、そこにいる者たちと共に、シエルターへ向かって下さい。
ノア
何故です？

謎の男
あなたの力になれます。レオンハルト王子と面会して下さい。

ハラシ、ミラ、「レオンハルト王子」に驚く。

ノア
レオンハルト王子。

メギ、バツカリスも「レオンハルト王子」に驚く。

謎の男

今、シエルターにおられます。私が、王子を救出します。そして、あなたと会って頂きます。

ノア

どうしてです？

謎の男

お父様の汚名を返上して下さい。王子もあなたも、我々が必ずお守りします。

ノア

カメリアさん。ありがとうございます。

謎の男

お礼は成功した時に。では、私の仲間に代わって下さい。

ノア、謎の女に代わる。

謎の女

聞いてたでヤンス。

謎の男

頼んだぞ。

謎の女

アニキは、どうするでヤンス？

謎の男

俺は、中継地点へ行き、応援を要請する。それから向かう。

謎の女

ラジャでヤンス。

謎の男

お前たちが到着する頃にシエルター自体は、すでに暴動が起きている可能性もある。だから、シエル

謎の女

ターの傍で待機してろ。分かったか。

謎の男

ラジャでヤンス。

謎の女

くれぐれも気をつけろ。

謎の男

ラジャでヤンス。

謎の女

ハラン、お前は、本体を追いかけろ。そして、その酒をシエルターにぶちまけろ。

ハラン

分かった。

謎の男

ミラ、俺と一緒に頼む。

ミラ

分かりました。

謎の男

(シーバーに) よし。シエルターで会おう。

その場に居る者、呼応する。

暗転

【9―】天送り前日

シエルター内。【8―2】と同じ場所。

ピーター、布に包んだ服を持って座っている。

子どもたちの声が聞こえる。

(子どもたち) ここから流そう。

(子どもたち) うん。

ピーター あまり無茶して怪我するなよ。明日は「天送り」なんだからな。

(子どもたち) 分かっているよー。

子どもたちは、小川で遊んでいるようだ。相変わらず、白い葉を舟にして流している。

(子どもたち) 流れた流れたー。

そこへ、ローダンがやってくる。

ローダン
ピーター
ローダン
ピーター
俺たちも昔は、あんなに無邪気だったのかな。
どうかな。覚えてないよ。
持ってきたか？
ああ。

ピーター、布に包んだ服をローダンに渡し、ローダンは持ってきたモノをピーターに渡す。

ピーター
ローダン
ピーター
ローダン
ピーター
やっぱり一人じゃ無理だ。君と一緒にじゃなきゃ。
そんな事ない。
ある。
じゃあ、もし俺が居なくなったら、一生をここで過ごすのか？
そんなの嫌だよ。

子どもたちの声が聞こえてくる。

(子どもたち)
ローダン
ピーター
ローダン
ピーター
ローダン
もう一回やろう。もう一回。
あの子たちも、明日の「天送り」で、少しだけ大人になるんだな。
何の疑問も持たず、今よりずっと感情を抑制させられてな。
そうだな。
「感情を抑制する事で、天への道を照らし、死者を送り出す。それが生者の幸福への道となる」
「感情を抑制することが幸福への道」・・・か。
うん。でも本当にそうなのかな。

ローダン

え？

ピーター

「心を乱す者、それは災いを呼ぶ者。災いを呼ぶ者、それは鬼を呼ぶ者。鬼に呼ばれる者、それは鬼となる者」・・・変だと思わないか？

ローダン

変？何が？

ピーター

僕も僕なりに考えてきたんだ。まだ今は、何となく、としか言えないけど、僕には変な気がしてならないんだ。鬼が人間だったって分かってから、僕の中で何かが変わり始めている。それは確かだ。だけど、もっと真ん中にある、モヤモヤしたモノが一体なんなのかが分からないんだ。

ローダン

俺も鬼が人間だと分かってから思うことはある。大人たちは、いや、エル様やセトさんは、俺たちに何かを隠している。それは確かだ。

ピーター

セトさんも？

ローダン

ああ。だけど俺は、ここにいます。姉さんを助けるまでは。

ピーター

じゃあ、僕も一緒に助けに行くよ。

ローダン

それはお前のやりたい事じゃないだろ。

ピーター

僕のやりたい事・・・。

ローダン

お前が本当にやりたい事をやればいいんだ。

ピーター

じゃあ、君の本当にやりたい事は何なんだ？

ローダン

姉さんと暮らすことだ。

ピーター

ここで？

ローダン

ここじゃなくていい。いや、むしろ、ここじゃないどこかで。二人きりの家族だからな。

ピーター

家族。

子どもたちの声。

(子どもたち)

今度はもっといっぱい流そう。

ローダン

お前は明日、ここを出る。そして、鬼のところへ行くんだ。きっとそこにお前が知る必要のある何かがある。

ピーター

僕が知る必要のある何か……。

ローダン

何故お前は名前を呼ばれたのか。鬼たちは何故、俺たちを迎えに来るのか。そこにモヤモヤの正体があるかも知れない。それと霧のがかった思い出の中の花が何なのか分かるかも知れない。

ピーター

……。

子どもたちの声。

(子ども)

ピーター、こっち来てよ。一緒に葉っぱの舟をいっぱい流そうよ。

ピーター

分かった。行くよ。行って確かめる。それが今、僕のやりたい事なのかも知れない。

【9-2】満月の夜

シエルターの近く。

ベラ、アキレアがいる。

ベラ

夜明けも近いわ。カメラリアは？

アキレア

まだ連絡はありません。

ベラ

そう。間に合わなかったのね。

アキレア

やはり裏切られたのかな、俺たちは。

ベラ

付き合わせちゃったわね。

アキレア

君はお人好しが過ぎる。

ベラ

ありがとう。こんな私を信じてくれて。

ロベがやってくる。

ロベ

様子を見に行った者たちの情報によると、そろそろ儀式が終わりそうです。

ベラ

分かった。

アキレア

本当に三代目教祖は拘束していいんだな？

ベラ

ええ。見つけ次第、拘束して。その後、私が話すわ。

アキレア

俺も付き合うよ。その方がいいだろ。しかし、（と夜空を見上げ）突入日和だなあ。

ベラ、ロベも夜空を見上げる。

ベラ

キレイな満月ね。

アキレア

まぶしいぐらいだ。

ベラ

きっと夜明けもキレイな朝日が見られるわ。

アキレア

ああ。

ベラ

さあ、始めましょう。

ベラ、シーバーに喋りだす。

ベラ

みんな、聞こえてる？ いやいよ今からシエルターに突入する。作戦は極めて簡単よ。太陽の描かれた壁の破壊、そしてシエルターの人々の解放。分かっているとと思うけど、決して争いはしない。自分の身に危険を感じたら、恐れず逃げる。いいわね。みんな笑顔で夜明けに会いましょう。

【9-3】

シエルター内。

調査隊4とロイがやってくる。

ロイ

こんな時に何してるんですか？

調査隊4

こんな時だからですよ。

ロイ

どこに行くんです？「真理の間」ですか？「天空の間」ですか？

調査隊4

どちらにもです。あなたは人々に紛れていた方がいいですよ。

ロイ

出来る事なら、そうしたいんですけど、あなたから離れると・・・

調査隊4

そうでしたね。いつ来られるんです、助けは。

ロイ

約束では今日ですが、まだですね。だ、騙されたのかも知れません。

調査隊4

では、こうしませんか？私があなただを逃がしてさしあげます。

ロイ

え？ほ、本当ですか？

調査隊4

ただ、条件があります。

ロイ

条件。

調査隊4

これを預かって下さい。(と、日記帳を渡す)

ロイ

(受け取る)何ですか、これは。

調査隊 4

ここにやってきてからの日記です。

ロイ

日記。

調査隊 4

もし私に何かあった時は、その日記を元・法務省リンドウ閣下にお渡し頂けますか。

ロイ

ほ、ほ、ほ、ほ、法務省！！！リンドウ閣下って、確か大臣だった人じゃないですか！？

調査隊 4

私が見た、この全てが書かれています。

ロイ

ちよ、ちよっと住む世界が違い過ぎて、渡せるかどうか。

調査隊 4

では、これも。(とメダルを渡す)

ロイ

こ、こ、こ、こ、これは、グレシオ王国の王家の紋章！！！！

調査隊 4

それがあれば、その日記が私の物だという証明になります。

ロイ

やっぱり、あんた、いや、あなた様は、ほ、ほ、ほ、ほ、ホンモノのレオンハルト王子だったんですね。

調査隊 4

でも、何故、俺に？

あなたがどうして私を監視しているのかは分かりませんが、あなたは悪い人じゃない。それだけです。任せましたよ。

と調査隊 4、
行こうとする。

ロイ

ちよ、ちよっと待って下さい。

調査隊 4

なんです？

ロイ

何をしようとしているのか分かりませんが、くれぐれも気をつけて下さい。

調査隊 4

ありがとうございます。

と調査隊 4、
行ってしまふ。

ロイ、日記と紋章を大事に、懐またはカバンに入れ、挙動不審に去る。

そして、場面は天送りの儀へと変わっていく。

【9-4】天送りの儀

人々のお経のような歌が聞こえてくる。そして儀式的な動きをしている。「朝闇の儀」とは、また違う動き。ここは、太陽の壁の前。

因みに人々は、フードのような物を着ているか、何かで顔を隠している。
※最低でもローダン、付き人、他3名程。

人々 かつて心を天空に捧げた者たちが、今宵、地上を離れて行く。それを地上の我々が感情を抑制する事

で、天への道を照らし、死者を送り出す。それが生者の幸福への道となる。

静まり返り、その中を、エルがやってくる。

人々 三代目。

と、ロ々に発する。

エル、太陽の壁に向かって天空に心を捧げる。

人々もそれに続く。

そしてエル、人々に向き直る。

エル

かつて心を天空に捧げた者たちは、正しき道を天高く歩んで行かれました。天は安らかな人々を受け入れ、地に幸福をもたらすことでしよう。この道は、未来に続いている。そして天にも続いているのです。真っ直ぐ。

と、エルのコトバの途中、セトが足早にやってきて

セト

終わりです。

エル

まだ神聖な天送りの儀は終わっていませんよ。

セト

いえ、三代目の終わりです。

エル

何を言ってるんです。

セト

今宵、三代目から四代目へと、教祖が引き継がれます。

人々の中から一人、(おそらく付き人であろう)

付き人

ここに四代目がおられる。

と、ピーター(の恰好をしたローダン)を立たせる。フードのようなもので顔が見えない。ピーターの恰好をしたローダン、突然の事に驚き、動揺している。

セト
人々

今から「お世継ぎの儀」を執り行います。
四代目。

と、ロ々に発し、四代目を仰ぐ。

エル (セトに) どういう事だ。

セト 見ての通り、世代交代ですよ。10年という短い期間でしたが、ご苦労様でした。元・教祖様。何を。

セト (エルに) お前が、なんとかしろ、と言ったんだろ。今からここに鬼たちがやってくる。が、すぐに制圧する。四代目の力により、鬼退治はあっけなく終わったという事になる。それが四代目の誕生を強く印象づけるのだ。そして信仰は四代目へと引き継がれていく。そういう事だ。まあ、大人しく見ていろ。

エル お前、裏切ったのか。(と、拘束される)
セト 元々目指すものが違ったんだよ。それだけの事だ。さあ、来たぞ、鬼が。

そこに、暗がりの中から防毒マスクを被った鬼たち(感情解放民間組織たち)がやってくる。

※最低でもベラ、ロベ、アキレア、ディアス、鬼もう一人の計5人が見えている。舞台上には見えていないが、袖には多くいるという事でもよい。

その中には壁を壊すための鉄の棒、鍬や斧を持った者たちがいる。(最低でもディアスとアキレアが持っている) 人々の声が止む。

鬼たち、ゆっくりやってくる。そして落ち着いた声で。

鬼たち 離れて。壁から離れて。

セト 皆さん、下がるのです。

シエルターの人々は、こんなに間近で鬼たちを見たのは初めてのはずだが、あまりにも静かで異様な空気が漂っている。

鬼たちとシエルターの人々、決してお互いの距離は縮まる事なく、ゆっくりと立ち位置が変わっていく。そして、鬼の一人（アキレア）が、壁に近付いて行く。

それをジッと見ているシエルターの人々。

アキレア

何か変だ。

ディアス

大丈夫だ。やれ、やるんだ、アキレア。

アキレア

・・・。

と、壁を叩き始める。

そこへ、ピーターの恰好をしたローダンが前に進み出る。

ローダン

止めて下さい。ここを壊さないで下さい。分かっています。あなた達は鬼ではない。人間だ。だから分かるでしょう。俺のコトバが。分かるでしょう？

人々

四代目。（とロ々に呟く）

エル

ピーター！やめなさい！鬼から離れなさい！（と引き留めに行こうとする）

それをセトが止める。

セト

邪魔をするな。

と同時に、壁の一部が崩れ落ちる。
壁の一部から光が射し込む。

アキレア

朝日だ。

と、アキレア、光をもろに浴びる。

突然、ディアスがピーターの恰好をしたローダンを鉄の棒で殴る。
しかし、シエルターの人々は驚くことも、悲嘆することもなく、見ている。
鬼たちは、その突然の暴力に驚き、ディアスを必死に止めに行く。

ロベ

ディアス、何を！（鬼たちに）ディアスを直ちに拘束！

と、光を浴びたアキレア、力尽きるように跪く。

ベラ

アキレア！

そして、ゆっくりとローダンが倒れる。

エル

ピーター！ピーター！！

ベラ

ピーター？ピーターなの？

セト

心配するな。ピーターは復活する。

と、人々を掻き分け、ローダンに駆け寄ってくるピーター。倒れたローダンを抱き、

ピーター ローダン！ローダーダーダー！！！！！

鬼たち ああ、何てことをしたんだ！何てことを！（嘆き悲しむ）

エル どういうことだ？

セト これは俺も驚いた。ローダンがピーターになりすましていたとは。

ベラ ああ・・・、ああ・・・。

ロベ ベラ、しっかりして下さい。

ディアス プルガトリオ！俺は正しい事をした！

ベラ 私は取り返しのつかないことを・・・。

ディアスは鬼に拘束され、連れて行かれる。

その間、ディアスの「プルガトリオ」という声に、シエルターの人々は、そのコトバを呟き始める。

ピーター 何故、何故こんな事を。（鬼たちに）僕は、お前たちは人間だと思っていた。だけど、だけど、これは、人間の仕業じゃない。鬼の仕業だ。お前たちは、やっぱり鬼なのか。

と鬼たちを見る。みんな嘆き悲しんでいる。

ピーター、その事に気付き、シエルターの人々を振り向く。

が、皆、無表情に近い状態で「プルガトリオ」を呟きながら、その光景を眺めている。

ピーター

そ、そんな。おい。仲間がやられたんだぞ。僕たちの仲間が。シエルターの仲間が目の前でやられたのに、どうして誰も悲しまないんだ。どうして誰も怒らないんだ。どうしてなんだ！

ロベ

(ベラに) 無感情兵士かも知れません。

それを聞いてベラ、ピーターに近づく。

ベラ

聞いて、ピーター。この人たちは皆、感情を奪われているの。だから、何も感じない。

ピーター

・・・。(自分の名前を知っている驚きでベラを見る。そして、何かを思い出そうと目を見開きベラをジッと見る)

エル

(セトに) 人々の感情を奪ったのか。

セト

さあ、鬼どもを全員捕まえろ。

人々は、セトの声に従い、無感情兵士として動き出す。一人だけ、セトの護衛として残る。(付き人が防衛隊長だが、無感情兵士化されている)
やがて「ブルガトリオ」のシュプレヒコールとなっていく、静けさから一転しシエルター内は騒然となっていく。

ベラ

全員退却。退却して！

無感情兵士、鬼たちを追いかけていく。

ロベ、アキレアの様子に気づく。

ベラ

ピーター、今の内に逃げるのよ。さあ。

ピーター

嫌だ。ローダンを置いていけないよ。それに、誰だ、あなたは。

ベラ

ピーター、私は、

ロベ

アキレア、アキレア・・・？

ベラ

(ロベに) 気を付けて。その光は朝日じゃない。感情を奪う光よ。

セト

よく分かったな、ベラ。

ベラ

セト。やっぱりあなたの仕事だったのね。

セト

覚えててくれたのか。どうだい？驚いたか？お前たちが壁を破壊するというから、急遽仕込んだんだよ。

ベラ

エル、あなたは利用されてただけよ。ずっと。これで分かったでしょう。感情を抑制することで幸福にはなれないの。

エル

いつからだ。

セト

最初からだ。最初から俺とシアの二人で作ってきたんだよ。

ベラ

シアが生きてるの？

エル

人間という器を捨て永遠に生き続けているよ。

ベラ

俺は、俺が望んできた事は、俺が見てきたこのセカイは、幻だったのか・・・。

エル

現実よ。

ベラ

感情が理性を呑み込んだこのセカイを俺は・・・、ここだけが幸福の楽園だったのに。ここだけが・・・。

ベラ

絶望するにはまだ早い。

セト

そうさ。絶望は、まだまだこれからなんだよ。

と、セト、エルをベラとピーターのいるところへ突き出す。

セトの護衛、刺股でそれらに対し牽制している。

セト

どうだ。家族が感動の再会だ。40秒だけ時間をやろう。

ピーター

家族。(ベラに)あなたは、あなたは、そんな、あなたは、

ベラ

聞いて、ピーター。逃げるのよ、ここから。

ピーター

ここから。

ベラ

いいのよ、逃げて。何かに関われちゃ駄目。自分の自由の為に。ここから逃げて。私がしたように。

ピーター

嘘だ。嘘でしょ。父さん。嘘だって言ってる。

ベラ

あなたはまだ幼かったのよ。そして私もこの人も、若かった。

エル

すまない、二人とも。俺は君たちに幸福を与え続けたかった。この光の見えないセカイから家族を守

ベラ

りたかったんだ。

セト

分かっている。分かっているから。今からでもやり直せる。だから逃げましょう。皆、一緒に。

セト

おーっと。そういう訳には行かないんだ、ベラ。

と、セト、ナイフをエルに向けている。

セト

こう見えて俺にも人の心はある。だから選べ。ここで天に送られたいたか、それとも、その光を浴び

セト

て無感情兵士になるか。残念だがピーター、君は別だ。君は、ここで死んでもらう。代わりに死んで

セト

しまった友人のようにな。そして復活するんだ。シアのように人間を超えた存在としてな。そしてシ

セト

エルターの救世主となる。四代目としてだ。俺にはよく分からんが、救世主は復活する事になってい

セト

るんだ、宗教的にな。

ローダン

いてててて・・・。

ピーター

ローダン！大丈夫か？

ローダン

頭がガンガンする。

セト

死んでなかったのか、まあいい。

ベラ

二人とも、逃げて。(ピーター、ローダンを立たせ、下がる)

エル

いや、君もだ。

ベラ

エル、駄目。

エル

今度こそ、君たちを守る。

セトが、エルに近付いてくる。エル、四人を守るように、下がらせていく。

護衛は、変わらず牽制し続けている。

セトとエルが対峙する。その距離、3mぐらいか。

エル

俺たちの家族が争いに巻き込まれた時、共に悲しんでくれたのは嘘だったのか。このセカイから、感情の差別や貧困から人々を守り、幸福を与えようと誓った事や、このセカイを救おうと誓い合った事は嘘だったのか。幸福の樂園は嘘だったのか。

セト

嘘だよ。もう一度言おう。お前はホンモノじゃない。ニセモノだ。全てシアの計算された真理なのだ。そして人々に聞こえていたのは声じゃない。聞こえていたのはシアが放つ電磁波なんだよ。その電磁波が感情を抑制された人々を信仰させている。そう、全て科学なんだよ。このセカイにホンモノの感情は存在しない。全て科学によって作られている。人々がお前にすがりついていたのも全てシアが作ったモノだ。プログラムされた信仰だ。そしてここは、俺にとっては、無感情兵士製造工場ってわけだ。ただそれだけだ。

エル

どうしてだ。兵士なんて。必要ないだろ。

セト

お国が必要なんだとよ。だから売っただけの事さ。

エル

嘘だろ。もう一回、嘘だと言ってくれ。セト。

ベラ

エル、もういいでしょ。一緒に逃げて。お願いだから。

セト

さあ、40秒はとっくに過ぎた。ここで死ぬか。

と、セト、ナイフをぐっと引き、エルに襲い掛かる。

ベラ

逃げて。

その瞬間、壁から射し込む光が消え、辺りが薄暗くなる。

そこへ謎の男が飛び込んできて、セトのナイフを弾き、護衛を一撃で下からせ、セトにも攻撃を食らわせる。それは芸術的な速さである。

その突然の事で、エルは後ろによろめき、ベラが受け止める。

セト、よろよろと後ずさり、

謎の男

安心せい。ただの棒だ。

と、セト、パタツと倒れこむ。護衛は一撃で既に倒れている。(袖中まで去っているかも知れない)

辺りは、うっすらと明るくなってきている。夜明けが近い。

ベラ

カメラア。

謎の男

待たせたな。あの不気味な光はハラシとミラが破壊した。さあ、お前さんたちも、ここからとっとと逃げな。

ベラ、エルの拘束を解く。

ベラ

(謎の男に) あなたは。

謎の男

俺には俺のやるべき事がある。

ピーター

ローダン、ここから逃げよう。

ローダン

駄目だ。俺は姉さんを助けないと。

ロベ

ドクタイラの弟さんですね。一緒に行きましょう。ドクターは無事です。こちらで保護しています。

ピーター

ローダン、良かったな。

ローダン

ピーター、一緒に行こう。

ピーター

一緒には行けない。だけど僕は。

ベラ

さあ、逃げましょう。

人々の「プルガトリオ」のシュプレヒコールは続いている。

エル、その声を聞き、

エル

そうだ。行け。無感情兵士に捕まる前に。

ベラ

あなたも一緒に。

エル

人々を止めなければ。

謎の男

心配するな。もうすぐ止まる。

と、そこにドーンと爆発音。

この爆発音の後、シュプレヒコールはゆっくりと止んでいく事になる。

謎の男

おいおい。派手にやりやがったな。

ベラ

何？

謎の男

天空の間を破壊した。これで、ここの人々の洗脳が解ける。あ、すまん。壁はミスリードだった。俺

ベラ

ええ、私もさつき聞いた。あなたに騙されたわ。

謎の男

これで分かったろう。簡単に人を信じちゃいけないってな。

セトが起き上がる。

セト

天空の間を破壊しただと……。

謎の男

目を覚ましたか。

そこへ、ロイと謎の女が走ってやってくる。謎の女、靴は戻っているため、両方履いている。

謎の女

アニキ。任務完了でヤンス。

ロイ

ちよ、ちよっと、聞いてないですよ。あんなに爆発するだなんて。

謎の女

だって、あのデカイ棺桶みたいな機械が、簡単に壊れるとは思えなかったでヤンス。

ロイ

いや、そうですけど。

謎の男

「真理の間」は？

謎の女

応援部隊が施設を包囲したでヤンス。

謎の男

証拠は？

謎の女

今まで見た事のない感情を奪う装置がズラリあったでヤンス。あれを作った馬鹿は、天才でヤンス。

謎の男

そうだな。

そこへ、ハラんとミラがやってくる。ハラん、『情熱』を持っている。

ハラん

レオンハルト王子は保護したぜ、バカヤロウ。

ミラ

今、あの、メギとバツカリスが、ノアさんと共に保護してます。

謎の男

助かったぜ。

ベラ

(二人に) ありがとう。

ハラん

おう。(ロベとアキレアに) テメエら大丈夫か、バカヤロウ。

ハラんとミラは、ロベとアキレアの方へ。

エル、セトに近付き、

エル

セト、終わりだ、全て。

セト

終わりだと。俺には、はじまりだ。悲劇のはじまりだ。シアを二度も失った。

エル

お前なら、もう一度、立ち上げられる。あの時のように。そして、もう一度、人々に幸福を与えよう。このセカイを悲劇から救おう。

セト

まだ言ってるのか。嘘だと言っただろう。分かったような口を利くな。誰が理解できる。誰が他人の不幸や悲劇を理解できる。お前に出来るのか。俺の不幸が、俺の悲劇が、お前に理解出来るのか。出来るわけがないだろ。これは俺の、俺だけの感情だ。その感情を他人のお前が理解できるわけがない。理解できるなんていう奴がいたら、それは思い上がりだ。理解してるつもりの方に酔っているだけの自惚れだ。だが、そうだな、そんな馬鹿共の感情を消し去ってやれば、このセカイは余程幸福だろうよ。他人を傷付けるだけの感情なんて、この世に必要はない。

ベラ

私たちは傷付け合うかも知れない。だけど、傷付けた人を慰め合う事も出来る。許し合う事も出来る。それは生きている者にしか出来ないの。時間はかかるかも知れないけど、幸福は、その先にある。綺麗事だね。

セト

セト、よろよろと立ち上がり、

セト

癒える事のない傷もある。

セト、よろよろと立ち去る。

エル、追いかけてようとする。(きつと天空の間へ行くだろう)

謎の男

よしな。分かり合えない事もある。

謎の女

捕まえるでヤンスか？

謎の男

放っておけ。何も出来ねえよ。

謎の女

ラジヤでヤンス。

と、そこへ空から白いモノがパラパラと降ってくる。

ベラ
樁。

ロイ
あのキレイな花だ。

ピーター
霧がかかった思い出の中に咲く花。

謎の男
一緒に吹っ飛ばしちまったから、風に乗って舞ってるぜ。

謎の女
キレイでヤンスねえ。

エル
完璧な美しさが散っていく。

ベラ
私の好きな花。

ピーター
え。

樁の花吹雪が止む頃、シュプレヒコールも止んでいる。

エル
人々の声が止んだ。

謎の男
さあ、ここはもうお仕舞だ。とっとと行っちゃいな。

ハラ
よし、じゃあ、こいつをぶちまけるか。

謎の男
そいつは待て。もう少し騒動が治まってからだ。

ベラ
さあ、行きましょう。

そこへ、ロレッタがやってくる。

ロレッタ
三代目。私たちの「幸福の楽園」が……。三代目。私たちを幸福の道へお導き下さい。

とエルに縋りつく。

エル 行ってくれ。俺は残る。

ベラ どうして。

エル 俺は行けない。

ベラ ここの人たちの事なら大丈夫よ。全員受け入れるから。

エル 分かっている。だけど、そうじゃないんだ。俺は、この人たちを守る責任がある。

ベラ 終わったのよ。もうあなたは教祖じゃない。

エル 分かっている。だけど償わせてくれ、ここで。

ベラ そんなのここじゃなくても出来る。

エル ここじゃなきゃいけないんだ。このセカイでしか生きられない人たちもいるんだ。

ベラ だからって、あなたじゃなくても・・・、どうして、そう頑固なのかなあ。私そういうところがイヤなのよ。

謎の男 それで生き別れになったんだな。

ベラ そうよ。この人の、この頑固なところが許せなかったのよ。ピーターも奪われて。私の事も考えろってのよ。

ハラシ (エルに) 色々話は聞いてはいたけど、テメエ、思っていたより酷いやつだな、バカヤロウ。

ベラ ピーター、この人は放っておいて行きましょう。

ピーター 僕も一緒には行けないよ。

ベラ どうして。

ピーター 分からない。

ローダン

じゃあ、どうするんだよ。

ピーター

それを考えてたんだ。

ハラン

おい。この親にして、この息子ありだな、バカヤロウ。(と、ベラと目が合う) あ。

ピーター

それで、分かった事があるんだ。ずっとモヤモヤしていた事がなんだったのか。父さん。僕は窮屈だったんだ。この見えているセカイが。与えられるだけで、この手に何も残らない、空虚なセカイが。窮屈で仕方がなかったんだ。だけど、僕は臆病だった。臆病な僕は、この窮屈から抜け出せなかったんだ。だけど今なら出来る。逃げていいんだ。

空は明け、夜明けとなる。

ピーター

僕を照らし続けたニセモノの太陽。そうか。ニセモノの太陽だからか。幸福がすぐに冷めてしまうのは。いや、違う。与えられた幸福だからだ。与えられた幸福だからすぐに冷めてしまうんだ。壁の間から射し込むホンモノの太陽。(光を掴むように手をかざす) なんて暖かいんだ。

ピーター、落ちている鉄の棒を拾い、

ピーター

さあ、僕とセカイを隔てる臆病な壁よ。光り輝く外のセカイへ。僕は自分の力で。

と、ピーター、壁に向かって力いっぱい鉄の棒を叩きつけようと振りかざし、暗転

完

